

Pioneer

DJミキサー

DJM-900NXS

DJM-900nexus

ご相談窓口・修理窓口のご案内

お取り扱いにお困りのとき、本書の巻末をご覧ください。

<http://www.prodjnet.com/support/>

上記の弊社ホームページでは、困ったときのよくある質問やソフトウェアの情報など、より快適に製品をお使いいただくための各種情報やサービスを提供しております。

取扱説明書

もくじ

本書の見かた

本書では、製品本体に表示されているチャンネル名、ボタン名、およびソフトウェア上のメニュー名などを、[] で囲んで記載しています。(例: [MASTER] チャンネル、[ON/OFF]、[File] メニュー)

01 安全上のご注意

警告	3
注意	3
設置場所について	4
製品のお手入れについて	4

02 はじめに

本機の特長	5
付属品を確認する	5

03 接続する

本体背面部	6
入力端子に接続する	7
出力端子に接続する	7
操作パネルに接続する	8
ドライバソフトウェアおよび設定ユーティリティソフトウェアについて	8

04 操作する

操作パネル	11
基本操作	13
応用操作	14

05 エフェクトの種類

SOUND COLOR FXの種類	17
BEAT EFFECTの種類	17

06 MIDI メッセージ一覧

07 設定を変更する

オートスタンバイ機能について	22
トークオーバー機能について	22
設定項目一覧	22

08 その他

故障かな?と思ったら	23
ブロックダイヤグラム	24
保証とアフターサービス	25
免責事項について	25
仕様	25

安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



警告

異常時の処置



万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。



電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重い物を載せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物を載せてしまうことがあります。



放熱をよくするために他の機器、壁等から間隔をとり、ラックなどに入れるときはすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あおむけや横倒し、逆さまにする。
- 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
- じゅうたんやふとんの上に置く。
- テーブルクロスなどをかける。



着脱式の電源コード（インレットタイプ）が付属している場合のご注意：付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用用品です。他の電気製品ではご使用できません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流量不足による発熱により火災・感電の原因となることがあります。

使用環境



本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



表示された電源電圧（交流 100 ボルト、50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。



本機の使用環境温度範囲は 5℃～35℃、使用環境湿度は 85%以下（通風孔が妨げられていないこと）です。風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光（または人工の強い光）の当たる場所に設置しないでください。

使用方法



本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。



本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。



雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



注意

設置



本機を設置する場合には、壁から 5 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときは、本機の背面から 5 cm 以上、側面から 3 cm 以上のすき間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



電源プラグは、根元まで差し込んでみゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事にコンセントの交換を依頼してください。



ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。



電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。



窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。



本機の上に火がついたらろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用方法



ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。



長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

保守・点検



5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。



お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

設置場所について

- 熱を発生するアンプなどの上に直接置いたり、スポットライトなどの近くで長時間使用すると、本体に悪い影響を与えますので、おやめください。
- チューナーやテレビから離して設置してください。近くに置いた場合は、雑音や映像の乱れが生じることがあります。なお、雑音や映像の乱れは室内アンテナをご使用の場合に起こりやすく、このようなときは、屋外アンテナを使用するか、本機の電源を切ってください。

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。

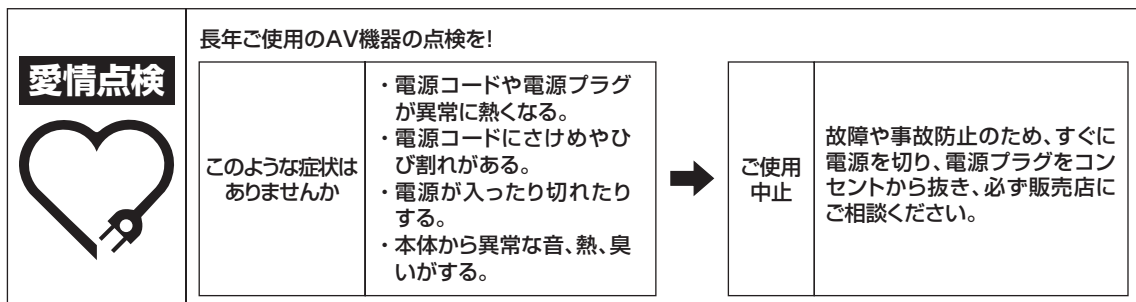
お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

音のエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

K021_A1_Ja



K026_A_Ja

はじめに

本機の特長

本機はクラブサウンドの世界標準であるパイオニア DJM シリーズの技術を継承した、プロDJ用スタンダードタイプのDJミキサーです。PRO DJ LINK、SOUND COLOR FX、BEAT EFFECTなどDJパフォーマンスのための多彩な機能を備えるだけでなく、高音質設計および操作性の高いパネルレイアウトを採用することにより、クラブシーンで活躍するすべてのプロDJのパフォーマンスを強力にサポートします。

SOUND CARD

本機は「サウンドカード / USB オーディオインターフェース」を搭載しています。

- 1台のコンピュータから最大4系統の音声を各チャンネルにアサインしてミックスできます。
- DJプレーヤーまたはアナログプレーヤーから再生されたDVS(Digital Vinyl System)ソフトウェア用タイムコード信号を、お手持ちのDVSソフトウェアに出力できます。複雑な接続をすることなくDVSソフトウェアを使ったDJプレイを楽しめます。
- 各チャンネル(チャンネル1~4、REC OUT、クロスフェーダーA側/B側、マイク)から最大4系統の音声をコンピュータに出力できます。ミックス時の録音などにとっても便利です。

HIGH SOUND QUALITY

デジタル / アナログの入力 / 出力において、音質の改善・向上を図っています。96kHz サンプリング、24bit 高音質 A/D コンバーター、32bit 高音質 D/A コンバーターによる音質処理によりパワフルで高品位な音を実現します。

USB オーディオは 96kHz 24bit に対応しています。

SOUND COLOR FX

6種類のエフェクトを搭載しています。各チャンネルに配置された [COLOR] ツマミを回すだけでエフェクトが得られ、各チャンネルに入力された楽曲を好みの音質に調整したり、即興的なパフォーマンスができます。

BEAT EFFECT

DJM シリーズで好評な BEAT EFFECT を継承し進化させました。

タッチ操作でさまざまな効果が得られる [X-PAD] を新たに搭載し、直感的で自由なライブパフォーマンスが実現できます。

CHANNEL FADER

新開発の高信頼性フェーダーをチャンネルフェーダーに採用しています。

従来の DJM シリーズで使用していたチャンネルフェーダーに比べ、ほこりや液体の付着による劣化に対して耐久性が向上しています。過酷な使用環境下においてもスムーズな操作性を保ち続けます。

PRO DJ LINK

PRO DJ LINK 対応のパイオニア製 DJ プレーヤー (CDJ-2000、CDJ-900 など)、rekordbox がインストールされているコンピュータ、および本機を LAN ケーブルを使って接続すると PRO DJ LINK 機能をお使いいただけます。

PRO DJ LINK については、14ページの「PRO DJ LINK について」をご覧ください。

STANDARD LAYOUT

DJ ミキサーの世界標準であるパイオニア DJM シリーズの操作パネルレイアウトを継承しています。

シンプルでわかりやすい操作パネルレイアウトは、DJ パフォーマンスしやすいだけでなく初めて使う DJ も迷わず操作できるので、クラブ常設機器として安心してお使いいただけます。

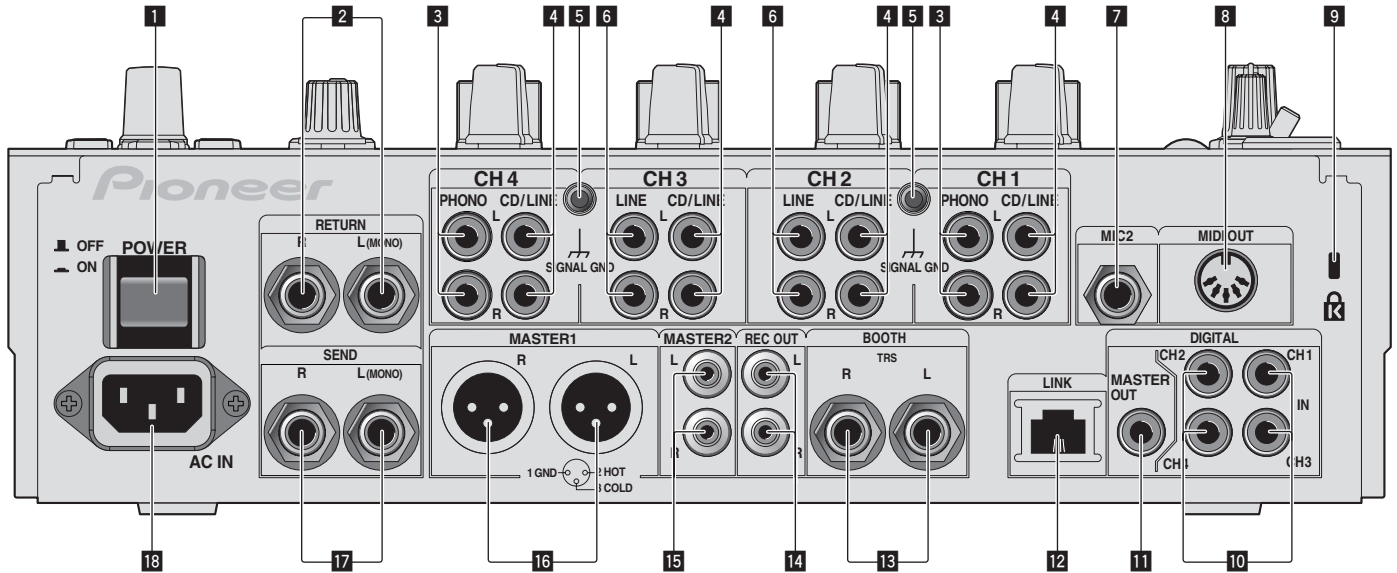
付属品を確認する

- CD-ROM
- USB ケーブル
- 電源コード
- 保証書
- サービス窓口のご案内
- 取扱説明書 (本書)

接続する

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。必ず付属の電源コードをお使いください。

本体背面部



1 POWERボタン (13ページ)

本機の電源をオン/オフします。

2 RETURN端子 (7ページ)

外部エフェクターの出力端子と接続します。[L (MONO)] だけに接続すると、[L (MONO)] に入力される音声は [R] にも入力されます。

3 PHONO端子 (7ページ)

フォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器と接続します。ラインレベルの信号を入力しないでください。[PHONO] 端子に機器を接続するときは、端子に差し込まれているショートピンプラグを取り外してください。このショートピンプラグは、[PHONO] 端子に何も接続しないとき外部ノイズをカットするために差し込んで使います。

4 CD/LINE端子 (7ページ)

DJ プレーヤーやラインレベルの出力機器と接続します。

5 SIGNAL GND端子 (7ページ)

アナログプレーヤーのアース線と接続します。アナログプレーヤー接続時の雑音低減を図ります。

6 LINE端子 (7ページ)

カセットデッキやラインレベルの出力機器と接続します。

7 MIC2端子 (7ページ)

マイクを接続します。

8 MIDI OUT端子 (7ページ)

外部 MIDI シーケンサーの MIDI IN 端子と接続します。

9 ケンジントンロック装着用穴

10 DIGITAL IN端子 (7ページ)

DJ プレーヤーなどのデジタル同軸出力端子と接続します。出力信号のサンプリング周波数が切り変わったときに、音声が一瞬途切れることがあります。

11 DIGITAL MASTER OUT端子 (7ページ)

マスターチャンネルの音声を出力します。

12 LINK端子 (7ページ)

パイオニア製 DJ プレーヤーの LINK 端子、または rekordboxがインストールされているコンピュータの LAN 端子と接続します (PRO DJ LINK)。複数の機器と接続するときはスイッチングハブ (市販) を使って接続してください。100Base-TX 対応のスイッチングハブをお使いください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。

13 BOOTH端子 (7ページ)

ブースモニター用出力端子です。TRS 端子のため、バランス出力、アンバランス出力に対応しています。

14 REC OUT端子 (7ページ)

録音用出力端子です。

15 MASTER2端子 (7ページ)

パワーアンプなどを接続します。

16 MASTER1端子 (7ページ)

パワーアンプなどを接続します。

17 SEND端子 (7ページ)

外部エフェクターの入力端子と接続します。[L (MONO)] だけに接続すると、モノラル音声を出力します。

18 AC IN

付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。必ず付属の電源コードをお使いください。

注意

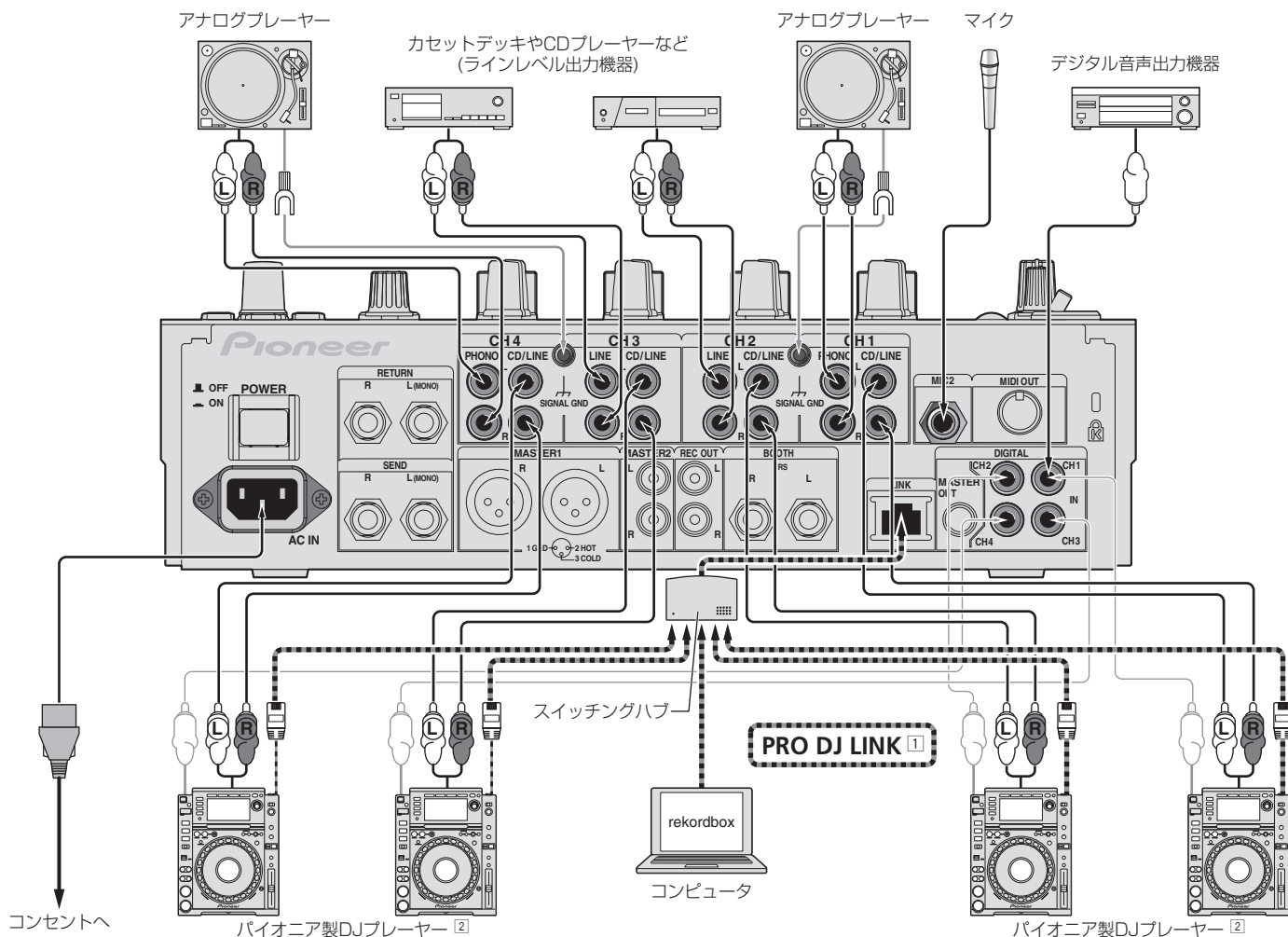
製品の仕様により、本体部やリモコン (付属の場合) のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらずに見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ (遮断装置) をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ (遮断装置) に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

警告

ショートピンプラグは幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合にはただちに医師と相談してください。

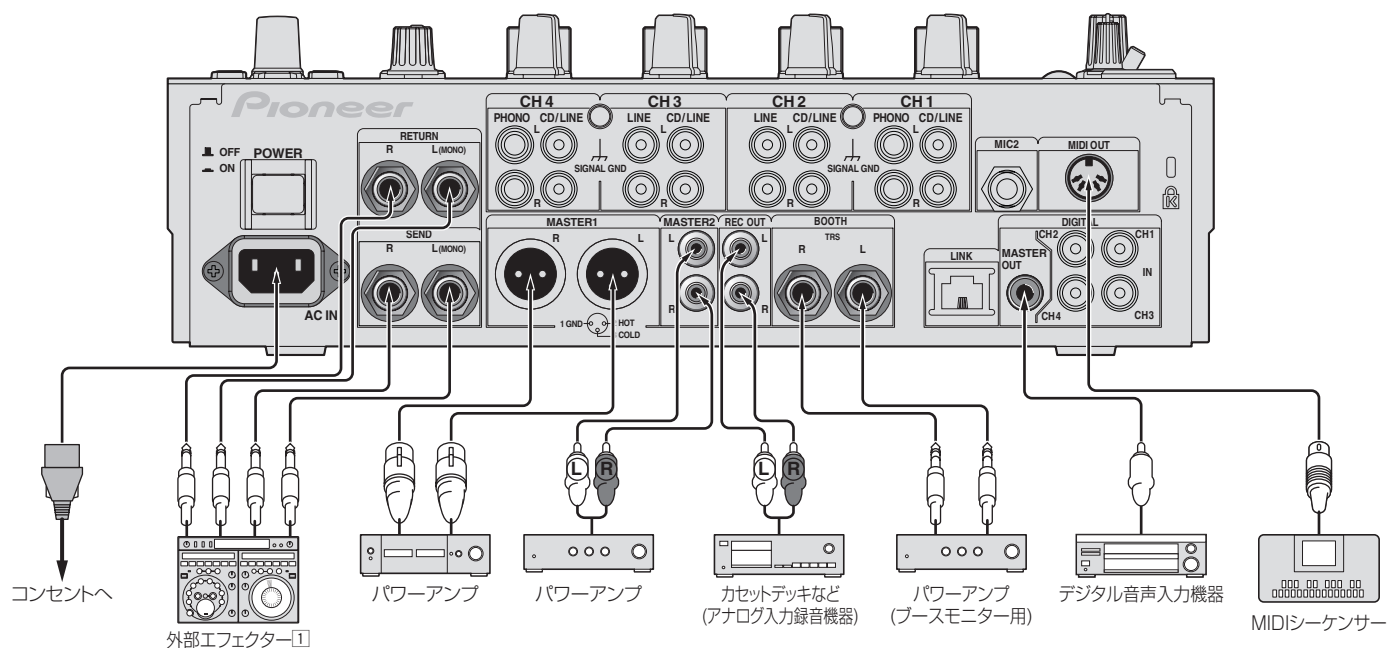
入力端子に接続する

- コンピュータやオーディオインターフェースなどと組み合わせて DVS(Digital Vinyl System) を構築するときは、オーディオインターフェースと本機の入力端子の接続および入力切換スイッチの設定にご注意ください。
DJソフトウェアおよびオーディオインターフェースの取扱説明書も合わせてご覧ください。



- PRO DJ LINKについては、14ページの「PRO DJ LINKについて」をご覧ください。
- フェーダースタート機能を使うときは、LAN ケーブルを接続します (13ページ)。

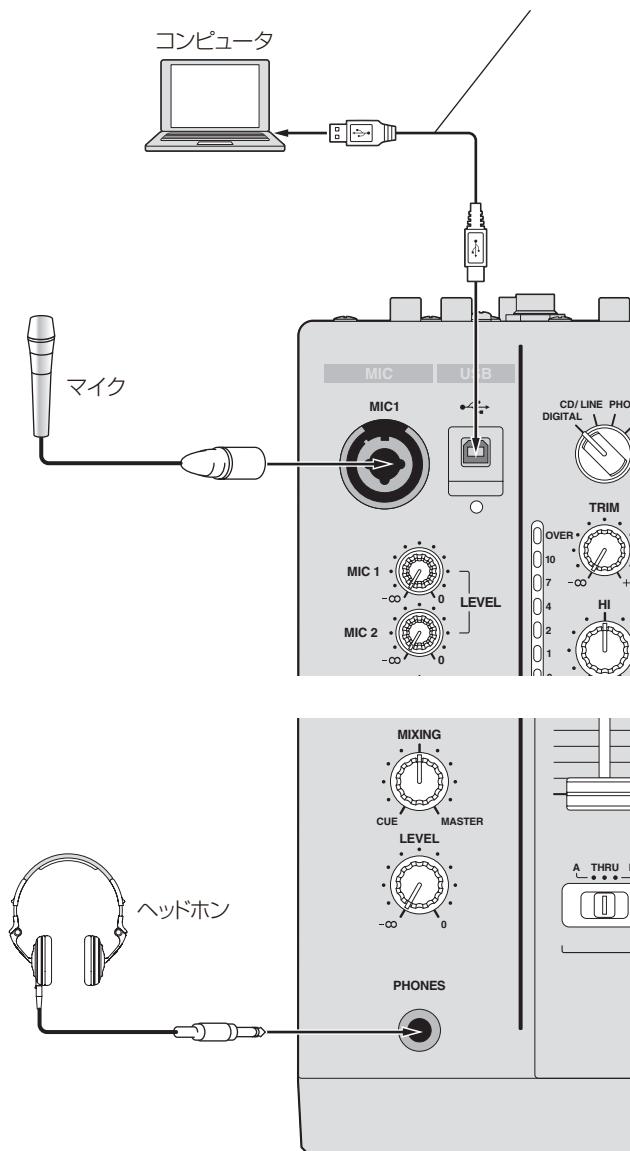
出力端子に接続する



- 外部エフェクターは [RETURN] 端子 (入力端子) にも接続してください。

操作パネルに接続する

必ず付属の USB ケーブルを使って接続してください。



ドライバソフトウェアおよび設定ユーティリティソフトウェアについて

本ドライバソフトウェアは、コンピュータからの音声を入力/出力するための専用ドライバソフトウェアです。本機を Windows または Mac OS がインストールされているコンピュータに接続してお使いになるときは、あらかじめコンピュータにドライバソフトウェアをインストールしてください。

ソフトウェア使用許諾契約書

このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」といいます）は、お客様とパイオニア株式会社（以下「当社」といいます）の間における、DJ 機器用ソフトウェア（以下「本ソフトウェア」といいます）の使用に関する事項を定めるものです。本ソフトウェアをインストールし、あるいはご利用になるにあたっては、必ず以下の条項をよくお読み下さい。お客様が本ソフトウェアをご利用になった場合は、本契約に同意されたものとします。もし本契約に同意されない場合には、本ソフトウェアのインストール及びご利用をおやめ下さい。

（使用許諾）

本契約の内容に従うことを条件として、お客様は、本ソフトウェアを一台のパーソナル・コンピュータにインストールして使用することができます。

（制限事項）

お客様は、本ソフトウェアの複製物を作成しあるいは配布し、またはネットワークを通じあるいは一台のコンピュータから別のコンピュータに送信してはなりません。また、お客様は、本ソフトウェアの改変、販売、貸与、譲渡、転売、本ソフトウェアの二次的著作物の頒布又は作成等を行うことはできず、さらに、逆コンパイル、リバース・エンジニアリング、逆アセンブルし、その他、人間の覚知可能な形態に変更することもできません。

（著作権等）

本ソフトウェアに関する著作権その他一切の知的財産権は、当社あるいはその関連会社に帰属します。本ソフトウェアは、著作権法及び国際条約の規定により保護されています。

（保証及び技術サポートの否認）

本ソフトウェア及びそれに付随する一切の資料等は、あくまで「現状のまま」提供されます。当社は、お客様や第三者に対して、これらの商品性、特定目的への適合性、他人の権利を侵害しないこと、その他一切の事項について保証せず、また、これらに対する技術サポートを行うこと等も保証しません。なお、国や地域によっては強行法規によってかかる保証の否認が認められないことがありますので、その場合には、かかる保証の否認は適用されないことがあります。また、お客様の権利は、国や地域によっても異なり得ます。

（責任制限）

当社、その他本ソフトウェアの供給者は、お客様が本ソフトウェア及びこれに付随する一切の資料を使用したこと又は使用できなかったことから生じる一切の損害（利益の逸失、ビジネスの中断、情報の消失・毀損などによる損害を含みますが、これらに限定されません）に関しては、たとえ当社が、そのような損害が生じる可能性を知らされていた場合であっても、一切責任を負いません。国や地域によっては強行法規によって付随的又は間接損害に対する責任の制限が認められないことがありますので、その場合には、かかる責任制限は適用されないことがあります。なお、いかなる場合においても、本ソフトウェアに関する当社またはその子会社の責任は、お客様が当社またはその子会社に対して支払った金額を超えないものとします。かかる保証の否認や責任制限は、お客様と当社との間の取り決めにおける基本的な要素です。

（準拠法）

本契約は、日本国の法令に準拠し、これに基づいて解釈されるものとします。本契約は、本ソフトウェアの使用について、お客様と当社の取り決めのすべてを記載するものであり、本件に関する従前のあらゆる合意（それが口頭でなされたか文書によりなされたかを問いません）に優先して適用されます。本契約に関連して紛争が生じた場合は、東京地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とします。

インストールについてのご注意

- ドライバソフトウェアをインストールする前に、本機の電源スイッチを切り、本機とコンピュータを接続している USB ケーブルを取り外してください。
- ドライバソフトウェアをコンピュータにインストールしないで本機をコンピュータに接続すると、お客様の環境によってはコンピュータにエラーが発生することがあります。
- ドライバソフトウェアのインストールを途中で中止したときは、以下の手順に沿ってはじめからインストールをやり直してください。
- 本機の専用ドライバソフトウェアをインストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- ドライバソフトウェアをインストールする前に、コンピュータ上で他に作業中のプログラムがあればすべて終了させてください。
- ドライバソフトウェアは以下の OS に対応しています。

対応 OS

Mac OS X (10.3.9以降)	○	
Windows® 7 Home Premium/Professional/Ultimate	32ビット版 64ビット版	○ ○

対応 OS		
Windows Vista® Home Basic/Home Premium/ Business/Ultimate	32 ビット版	○
	64 ビット版	○
Windows® XP Home Edition/Professional (SP2以降)	32 ビット版	○
Windows® XP Professional x64 Edition には対応していません。		

- 付属の CD-ROM には、以下の 12 言語のインストールプログラムが収録されています。
英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語、日本語
その他の言語の OS でお使いになるときは、画面の指示に従って [English (英語)] を選んでください。

ドライバソフトウェアをインストールする

❖ インストール手順 (Windows)

ドライバソフトウェアをインストールする前に「インストールについてのご注意」をよくお読みください。

- ドライバソフトウェアをインストール、アンインストールするには、コンピュータの管理者権限が必要です。コンピュータの管理者に設定されているユーザーでログインしてからインストールしてください。

1 付属の CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入する

- CD-ROM のフォルダが表示されます。
- CD-ROM を挿入しても CD-ROM のフォルダが表示されないときは、[スタート]メニューの [コンピュータ (またはマイコンピュータ)] から CD ドライブを開いてください。

2 [DJM-900nexus_X.XXX.exe] をダブルクリックする

ドライバのインストール画面が表示されます。

3 言語選択画面が表示されたら、[日本語] を選んでから [OK] をクリックする

お客様のコンピュータの環境によっては、複数の言語から表示言語を選べます。

4 「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] にチェックを入れてから [OK] をクリックする

「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意しただけでないときは、[キャンセル] をクリックして、インストールを中止してください。

5 画面の指示に従ってインストールする

インストールの途中で [Windows セキュリティ] 画面が表示されることがありますが、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックしてインストールを続行してください。

- Windows XP にインストールしているとき
インストールの途中で [ハードウェアのインストール] 画面が表示されることがありますが、[続行] をクリックしてインストールを続行してください。
- インストールプログラムが終了すると終了メッセージが表示されます。
- ドライバソフトウェアのインストールが完了したら、コンピュータを再起動する必要があります。

❖ インストール手順 (Macintosh)

ドライバソフトウェアをインストールする前に「インストールについてのご注意」をよくお読みください。

- ドライバソフトウェアをインストール、アンインストールするには、コンピュータの管理者権限が必要です。コンピュータの管理者の「名前」と「パスワード」をあらかじめご用意ください。

1 付属の CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入する

- CD-ROM のフォルダが表示されます。
- CD-ROM を挿入しても CD-ROM のフォルダが表示されないときは、デスクトップ上の CD アイコンをダブルクリックしてください。

2 [DJM-900nexus_M_X.X.X.dmg] をダブルクリックする

[DJM-900nexusAudioDriver] のメニュー画面が表示されます。

3 [DJM-900nexusAudioDriver.pkg] をダブルクリックする

ドライバのインストール画面が表示されます。

4 画面の内容を確認して [続行する] をクリックする

5 使用許諾契約画面が表示されたら、[日本語] を選んで「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、[続行する] をクリックする

お客様のコンピュータの環境によっては、複数の言語から表示言語を選べます。

6 「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] をクリックする

「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意しただけでないときは、[同意しない] をクリックして、インストールを中止してください。

7 画面の指示に従ってインストールする

- インストールを途中で中止するときは [キャンセル] をクリックしてください。
- ドライバソフトウェアのインストールが完了したら、コンピュータを再起動する必要があります。

本機とコンピュータを接続する

1 本機とコンピュータを USB ケーブルで接続する

- 本機は ASIO 規格に準拠したオーディオデバイスとしての機能を備えています。
- USB2.0 に対応していないコンピュータでは動作しません。
 - DJ アプリケーションによってコンピュータの推奨動作環境が異なります。お使いの DJ アプリケーションの推奨動作環境を必ずご確認ください。
 - 他の USB オーディオデバイスと同時にコンピュータに接続すると、正常に動作および認識されないことがあります。
コンピュータと本機だけを接続することをおすすめします。
 - コンピュータと接続するときは、本機の USB 端子に直接接続することをおすすめします。

2 [POWER] ボタンを押す

本機の電源をオンにします。

- 本機をはじめてコンピュータに接続したとき、またはコンピュータの USB 端子をつなぎ変えたときに [デバイスドライバソフトウェアをインストールしています。] メッセージが表示されることがあります。[デバイスを使用する準備ができました。] メッセージが表示されるまでそのままお待ちください。
- Windows XP にインストールしているとき
 - インストールの途中で [ハードウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?] と表示されることがあります。[いいえ、今回は接続しません] を選んで [次へ] をクリックしてインストールを続行してください。
 - インストールの途中で [インストール方法を選んでください] と表示されることがあります。[ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨)] を選んで [次へ] をクリックしてインストールを続行してください。
 - インストールの途中で [Windows セキュリティ] 画面が表示されることがありますが、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックしてインストールを続行してください。

設定ユーティリティについて

設定ユーティリティを使って以下の内容を確認および設定できます。

- 本機の [DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチの状態を確認する
- 本機からコンピュータへの音声データ出力を設定する
- バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)
- ドライバソフトウェアのバージョンを確認する

❖ 設定ユーティリティを表示する

Windows のとき

[スタート]メニュー>[すべてのプログラム]>[Pioneer]>[DJM-900nexus]>[DJM-900nexus 設定ユーティリティ] をクリックする

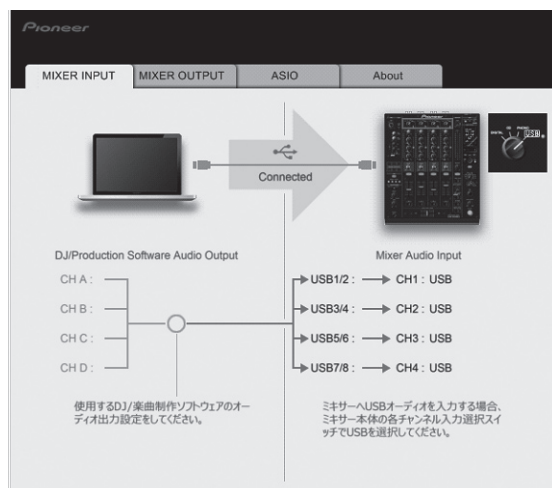
Mac OS X のとき

[Macintosh HD] アイコン>[Application]>[Pioneer]>[DJM-900nexus]>[DJM-900nexus 設定ユーティリティ] をクリックする

❖ 本機の [DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチの状態を確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

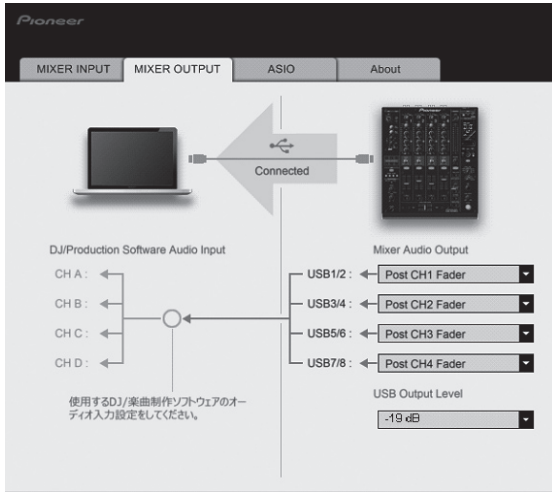
[MIXER INPUT] タブをクリックする



❖ 本機からコンピュータへの音声データ出力を設定する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする



2 [Mixer Audio Output] のプルダウンメニューをクリックする

本機内部の音声信号の流れの中から、コンピュータへ出力する音声データを選んで設定します。

CH1	CH2	CH3	CH4
CH1 Timecode PHONO ^[1]	CH2 Timecode CD/LINE ^[1]	CH3 Timecode CD/LINE ^[1]	CH4 Timecode PHONO ^[1]
CH1 Timecode CD/LINE ^[1]	CH2 Timecode LINE ^[1]	CH3 Timecode LINE ^[1]	CH4 Timecode CD/LINE ^[1]
CH1 Timecode DIGITAL ^[1]	CH2 Timecode DIGITAL ^[1]	CH3 Timecode DIGITAL ^[1]	CH4 Timecode DIGITAL ^[1]
POST CH1 Fader ^[2]	POST CH2 Fader ^[2]	POST CH3 Fader ^[2]	POST CH4 Fader ^[2]
Cross Fader A ^[2]	Cross Fader A ^[2]	Cross Fader A ^[2]	Cross Fader A ^[2]
Cross Fader B ^[2]	Cross Fader B ^[2]	Cross Fader B ^[2]	Cross Fader B ^[2]
MIC	MIC	MIC	MIC
REC OUT ^[2]	REC OUT ^[2]	REC OUT ^[2]	REC OUT ^[2]

[1]: [USB Output Level] の設定に関係なく本機に入力された音量のまま出力されます。

[2]: 録音用途以外で使うときは、音声のループが発生しないよう DJ アプリケーションの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。

3 [USB Output Level] のプルダウンメニューをクリックする

本機から出力される音声データの音量を調節します。

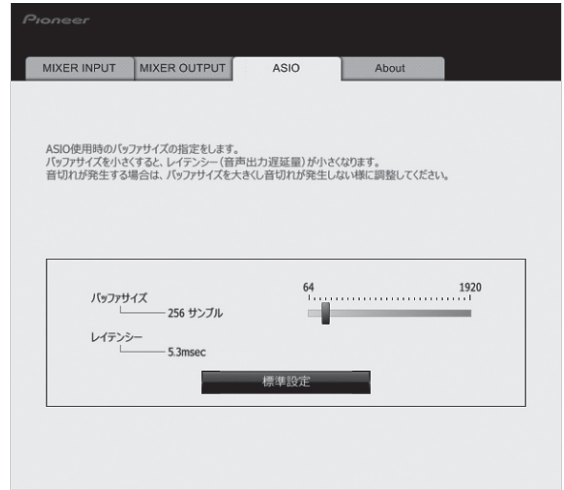
- [USB Output Level] の設定はすべての音声データに対して共通です。ただし、手順 2 の表の [1] を選んでいるときは本機に入力された音量のまま出力されます。
- DJ ソフトウェアの音量調節だけで十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] を変更して本機から出力される音声データの音量を調節してください。音量を上げすぎると音声が変わることがありますのでご注意ください。

❖ バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)

本機を既定のオーディオデバイスとして使っているアプリケーション (DJ ソフトウェアなど) が起動しているときは、そのアプリケーションを終了してからバッファサイズを調整してください。

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[ASIO] タブをクリックする

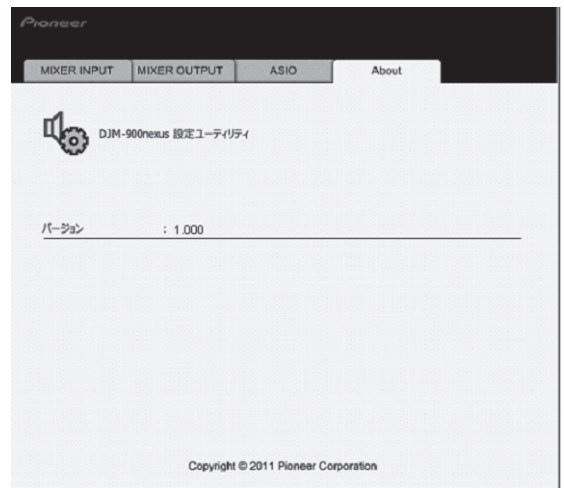


- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落 (音とぎれ) などが生じにくくなりますが、音声データの伝送遅延 (レイテンシー) によるタイムラグが増大します。

❖ ドライバソフトウェアのバージョンを確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[About] タブをクリックする



ドライバソフトウェアの最新情報を確認する

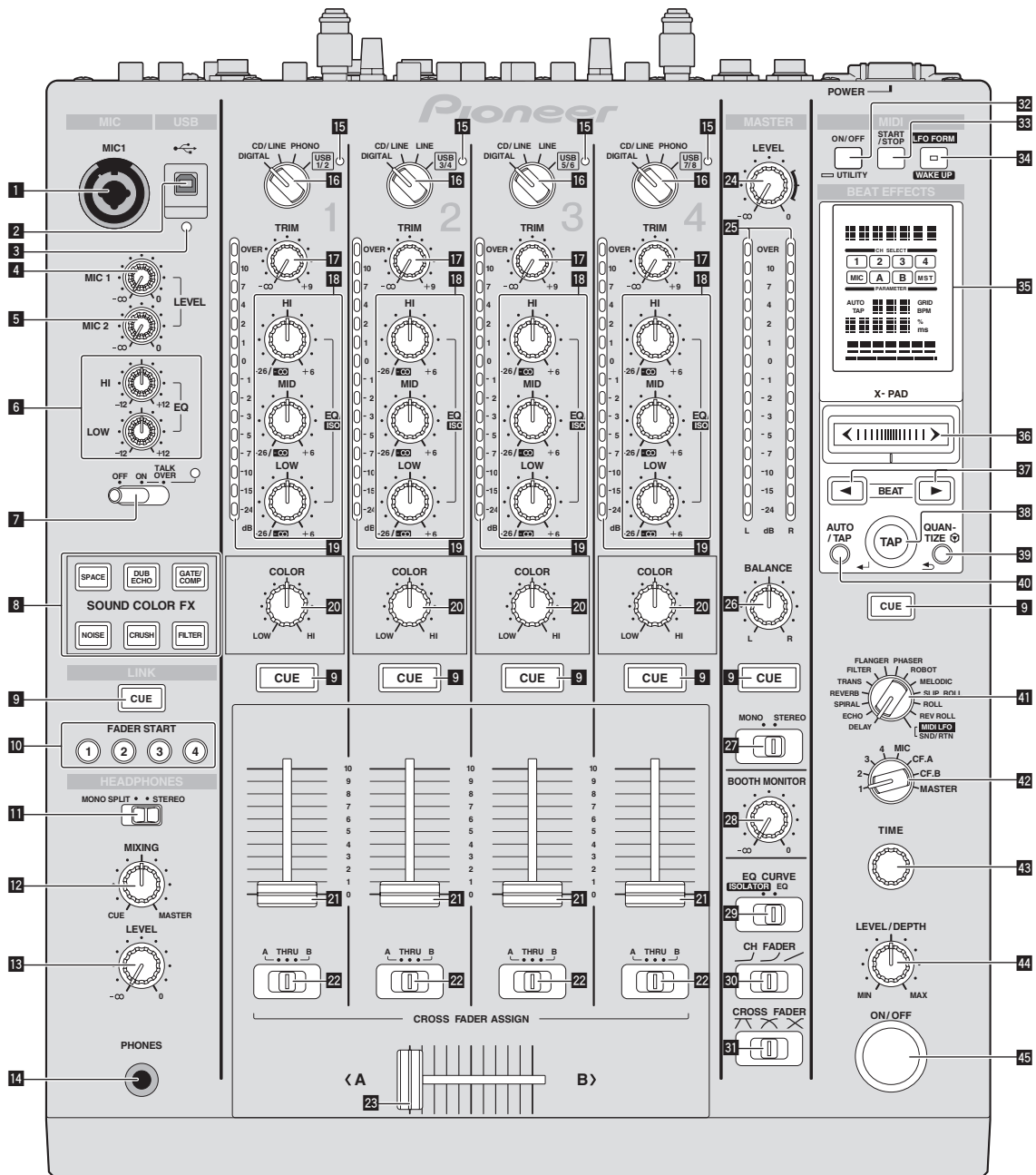
本機の専用ドライバソフトウェアの最新情報については、下記ホームページを参照してください。

<http://www.prodjnet.com/support/>

- 1 台のコンピュータに本機を複数台接続したときは、動作を保証できません。

操作する

操作パネル



- 1 MIC1端子 (14ページ)**
マイクを接続します。
- 2 USB端子 (8ページ)**
コンピュータを接続します。
- 3 USB接続インジケータ**
コンピュータと通信しているときに点灯します。
- 4 MIC1 LEVELツマミ (14ページ)**
[MIC1] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。
- 5 MIC2 LEVELツマミ (14ページ)**
[MIC2] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。
- 6 EQ (HI, LOW) ツマミ (14ページ)**
[MIC1] チャンネルおよび [MIC2] チャンネルの音質を調整します。
- 7 OFF, ON, TALK OVER 切換スイッチ (14ページ)**
マイクをオン/オフします。
- 8 SOUND COLOR FX ボタン (14ページ)**
SOUND COLOR FX をオン/オフします。
- 9 CUE ボタン (13ページ)**
モニターしたいチャンネルの [CUE] ボタンを押します。
- 10 FADER START (1, 2, 3, 4) ボタン (13ページ)**
フェーダースタート機能をオン/オフします。
- 11 MONO SPLIT, STEREO 切換スイッチ (13ページ)**
ヘッドホンから出力されるモニター音声の振り分け方法を切り換えます。
- 12 MIXING ツマミ (13ページ)**
[CUE] ボタンが押してあるチャンネルの音声と [MASTER] チャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。
- 13 LEVEL ツマミ (13ページ)**
ヘッドホンから出力される音声レベルを調整します。
- 14 PHONES 端子 (13ページ)**
ヘッドホンを接続します。
- 15 USB 音声入力インジケータ**
コンピュータから各チャンネルに音声が入力されているとき点灯します。

16 DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*切替スイッチ (13ページ)

本機に接続している機器の中から、各チャンネルの入力ソースを切り換えます。

17 TRIMツマミ (13ページ)

各チャンネルに入力される音声レベルを調整します。

18 EQ/ISO (HI, MID, LOW) ツマミ (13ページ)

各チャンネルの音質を調整します。

19 チャンネルレベルインジケータ (13ページ)

各チャンネルのチャンネルフェーダー通過前の音声レベルを表示します。

20 COLORツマミ (14ページ)

各チャンネルの SOUND COLOR FXのパラメーターを変化させます。

21 チャンネルフェーダー (13ページ)

各チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

22 CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B) 切替スイッチ (13ページ)

チャンネルの出力先をクロスフェーダーの[A]側または[B]側に割り当てます。

23 クロスフェーダー (13ページ)

クロスフェーダーアサインスイッチによって割り当てられた音声を、[CROSS FADER] (クロスフェーダーカーブ切替スイッチ) で選んでいるカーブ特性に従って出力します。

24 MASTER LEVELツマミ (13ページ)

[MASTER] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

25 マスターレベルインジケータ (13ページ)

[MASTER] チャンネルから出力される音声レベルを表示します。

26 BALANCEツマミ (14ページ)

[MASTER1] 端子などから出力される音声の左右のバランスを調整します。

27 MONO, STEREO切替スイッチ (14ページ)

[MASTER1] 端子などから出力される音声のモノラル/ステレオを切り換えます。

28 BOOTH MONITORツマミ (14ページ)

[BOOTH] 端子から出力される音声レベルを調整します。

29 EQ CURVE (ISOLATOR, EQ) 切替スイッチ (13ページ)

[EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ツマミの機能を切り換えます。

30 CH FADER (ノ, ノ, ノ) 切替スイッチ (13ページ)

チャンネルフェーダーのカーブ特性を切り換えます。

31 CROSS FADER (ハ, ハ, X) 切替スイッチ (13ページ)

クロスフェーダーのカーブ特性を切り換えます。

32 ON/OFF (UTILITY) ボタン

- ON/OFF : MIDI をオン/オフします (16ページ)。
- UTILITY : [USER SETUP] 画面または [CLUB SETUP] 画面を表示します (22ページ)。

33 START/STOPボタン (16ページ)

MIDI スタート/MIDI ストップを送信します。

34 LFO FORM (WAKE UP) ボタン

- LFO FORM : BEAT EFFECTで [MIDI LFO] を選んでいるとき、ボタンを押すたびに MIDI 信号の波形を切り換えます (19ページ)。
- WAKE UP : オートスタンバイ状態を解除します (22ページ)。

35 本体表示部

36 X-PAD (15ページ)

BEAT EFFECTの量的パラメーターを調整します。

37 BEAT ◀, ▶ ボタン (15ページ)

エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。

38 TAP (ENTER) ボタン

- TAP : BPM の測定モードが [TAP] のとき、ボタンを指で叩いて手動で BPM を入力します (15ページ)。
- ENTER : 本機の設定を変更するときに使います (22ページ)。

39 QUANTIZEボタン

- 本機の設定を変更するときに使います (22ページ)。
- BEAT EFFECTで QUANTIZE機能がオンになっているとき、再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトを加えます。(15ページ)。

40 AUTO/TAPボタン (15ページ)

BPM の測定モードを切り換えます。

41 DELAY, ECHO, SPIRAL, REVERB, TRANS, FILTER, FLANGER, PHASER, ROBOT, MELODIC, SLIP ROLL, ROLL, REV ROLL, SND/RTN (MIDI LFO) 切替スイッチ (15ページ)

BEAT EFFECTのエフェクトの種類を切り換えます。

42 1, 2, 3, 4, MIC, CF.A, CF.B, MASTER切替スイッチ (15ページ)
BEAT EFFECTを加えるチャンネルを切り換えます。

43 TIMEツマミ (15ページ)

BEAT EFFECTの時間的パラメーターを調節します。

44 LEVEL/DEPTHツマミ (15ページ)

BEAT EFFECTの量的パラメーターを調整します。

45 ON/OFFボタン (15ページ)

BEAT EFFECTをオン/オフします。

チャンネルフェーダーツマミおよびクロスフェーダーツマミは無理に引き抜かないでください。簡単に引き抜けない構造になっているため、ノブが壊れる可能性があります。

基本操作

音声を出力する

1 [POWER] ボタンを押す

本機の電源をオンにします。

2 [DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチを回す

本機に接続している機器の中から、各チャンネルの入力ソースを選びます。

- [DIGITAL]: [DIGITAL] 端子に接続している DJ プレーヤーを選びます。
- [PHONO]: [PHONO] 端子に接続しているアナログプレーヤーを選びます。
- [CD/LINE]、[LINE]: [LINE] 端子に接続しているカセットデッキや CD プレーヤーを選びます。
- [USB */*]: [USB] 端子に接続しているコンピュータの音声を選びます。

3 [TRIM] ツマミを回す

各チャンネルに入力される音声レベルを調整します。

各チャンネルに音声が正しく入力されているときは、チャンネルレベルインジケータが点灯します。

4 チャンネルフェーダーを奥側に動かす

各チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

5 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを切り換える

各チャンネルの出力先を切り換えます。

- [A]: クロスフェーダーの [A] (左) 側に割り当てます。
- [B]: クロスフェーダーの [B] (右) 側に割り当てます。
- [THRU]: クロスフェーダーを使わないときに選びます (クロスフェーダーは通過しません)。

6 クロスフェーダーを動かす

[CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを [THRU] に設定しているときは、この操作は必要ありません。

7 [MASTER LEVEL] ツマミを回す

[MASTER1] 端子および [MASTER2] 端子から音声が出力されます。マスターレベルインジケータが点灯します。

音質を調整する

各チャンネルの [EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ツマミを回す

各ツマミで調整できる音域については、25ページの「仕様」をご覧ください。

❖ [EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ツマミの機能を切り換える

[EQ CURVE (ISOLATOR, EQ)] 切換スイッチを切り換える

- [ISOLATOR]: アインレーターとして機能します。
- [EQ]: イコライザーとして機能します。

ヘッドホンで音声をモニターする

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

2 モニターしたいチャンネルの [CUE] ボタンを押す

3 [MONO SPLIT, STEREO] 切換スイッチを切り換える

- [MONO SPLIT]: ヘッドホン出力の左チャンネルから [CUE] ボタンが押しあがあるチャンネルの音声、右チャンネルから [MASTER] チャンネルの音声が出力されます。
- [STEREO]: [CUE] ボタンが押しあがあるチャンネルの音声がヘッドホンからステレオ音声で出力されます。

4 [MIXING] ツマミを回す

[CUE] ボタンが押しあがあるチャンネルの音声と [MASTER] チャンネルの音声をモニター音量バランスを調整します。

5 [HEADPHONES] の [LEVEL] ツマミを回す

[CUE] ボタンが押しあがあるチャンネルの音声がヘッドホンから出力されます。

- [CUE] ボタンをふたたび押すと、モニターが解除されます。

コンピュータの音声をモニターする

• あらかじめ rekordboxの [ファイル] > [環境設定] > [オーディオ] で [PIONEER DJ ミキサーの [LINK MONITOR] 機能を使用する] にチェックを入れてください。rekordboxの操作説明書もあわせてご覧ください。

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

2 rekordboxがインストールされているコンピュータを接続する接続の仕方については、7ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

3 rekordboxでモニターしたい楽曲を選ぶ

4 [LINK] の [CUE] ボタンを押す

rekordboxで選んだ楽曲がヘッドホンから出力されます。

- [CUE] ボタンをふたたび押すと、モニターが解除されます。
- 「ヘッドホンで音声をモニターする」(手順3～手順5)と同じ操作をすることが出来ます。

フェーダーカーブを切り換える

❖ チャンネルフェーダーのカーブ特性を選ぶ

[CH FADER (∟, ∟, ∟)] 切換スイッチを切り換える

- [∟]: 奥側で急峻に立ち上がるカーブになります。
- [∟]: 上下2つの中間のカーブになります。
- [∟]: 徐々に立ち上がるカーブになります (チャンネルフェーダーが手前側から離れると音声が徐々に大きくなります)。

❖ クロスフェーダーのカーブ特性を選ぶ

[CROSS FADER (∨, ∨, ×)] 切換スイッチを切り換える

- [∨]: 急峻に立ち上がるカーブになります (クロスフェーダーが [A] 側の端から離れると、すぐに [B] 側の音声が出力されます)。
- [∨]: 上下2つの中間のカーブになります。
- [×]: 徐々に立ち上がるカーブになります (クロスフェーダーが [A] 側の端から離れると、[B] 側の音声が徐々に大きくなり、[A] 側の音声が徐々に小さくなります)。

フェーダーを使ってDJプレーヤーの再生を始める (フェーダースタート)

バイオニア製DJプレーヤーとLANケーブルを使って接続すると、DJプレーヤーの再生を始めるなどの操作を、本機のフェーダーで制御できます。

あらかじめ本機とバイオニア製DJプレーヤーを接続してください。接続の仕方については、7ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

バイオニア製DJプレーヤーのプレーヤー番号の設定については、14ページの「PRO DJ LINKについて」をご覧ください。

フェーダースタート機能のオン/オフは一括して切り換えられます。切り換え方法については、22ページの「設定を変更する」をご覧ください。

❖ チャンネルフェーダーを使って再生を始める

1 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを [THRU] に設定する

2 [FADER START (1, 2, 3, 4)] ボタンのいずれかを押す

フェーダースタートさせたいチャンネルを選びます。

3 チャンネルフェーダーを一番手前の位置に設定する

4 DJプレーヤーでキューを設定する

DJプレーヤーがキューポイントで頭出しされて一時停止状態になります。

5 チャンネルフェーダーを奥側に動かす

DJプレーヤーの再生が始まります。

- チャンネルフェーダーの位置を元に戻すと、設定されているキューポイントに瞬時に戻り、頭出しされて一時停止状態になります (バックキュー)。

❖ クロスフェーダーを使って再生を始める

1 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを [A] または [B] に設定する

2 [FADER START (1, 2, 3, 4)] ボタンのいずれかを押す

フェーダースタートさせたいチャンネルを選びます。

3 クロスフェーダーを動かす

フェーダースタートさせたいチャンネルが設定されている側とは反対側の端に設定します。

4 DJプレーヤーでキューを設定する

DJプレーヤーがキューポイントで頭出しされて一時停止状態になります。

5 クロスフェーダーを動かす

DJプレーヤーの再生が始まります。

- クロスフェーダーの位置を元に戻すと、設定されているキューポイントに瞬時に戻り、頭出しされて一時停止状態になります (バックキュー)。

マイクを使う

- [MIC1] 端子または [MIC2] 端子にマイクを接続する
 - [OFF, ON, TALK OVER] 切換スイッチを [ON] または [TALK OVER] に設定する
 - [ON] : インジケーターが点灯します。
 - [TALK OVER] : インジケーターが点滅します。
 - [TALK OVER] に設定すると、マイクに -10 dB 以上の音声が入力されたとき [MIC] チャンネル以外の音声が 18 dB (初期設定値) 減衰します。
 - [TALK OVER] の音声減衰レベルは [USER SETUP] で変更できます。変更方法については、22ページの「設定を変更する」をご覧ください。
- [MIC1 LEVEL] ツマミまたは [MIC2 LEVEL] ツマミを回す [MIC] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。
 - 右に回しすぎると大音量で音声が出力されますのでご注意ください。
 - マイクに音声を入力する

❖ 音質を調整する

[MIC] チャンネルの [EQ (HI, LOW)] ツマミを回す
各ツマミで調整できる音域については、25ページの「仕様」をご覧ください。

モノラル音声 / ステレオ音声を切り換える

[MASTER1] 端子、[MASTER2] 端子、[BOOTH] 端子、[REC OUT] 端子、[PHONES] 端子、[DIGITAL MASTER OUT] 端子、および [USB] 端子から出力される音声のモノラル音声 / ステレオ音声を切り換えられます。

- [USB] 端子から出力される音声を調整するときは、設定ユーティリティの [Mixer Audio Output] で [REC OUT] を選んでください。

[MONO, STEREO] 切換スイッチを切り換える

- [MONO] : モノラル音声が出力されます。
- [STEREO] : ステレオ音声が出力されます。

❖ 音声の左右バランスを調整する

[MASTER1] 端子、[MASTER2] 端子、[BOOTH] 端子、[REC OUT] 端子、[PHONES] 端子、[DIGITAL MASTER OUT] 端子、および [USB] 端子から出力される音声の左右のバランスを調整できます。

- [USB] 端子から出力される音声を調整するときは、設定ユーティリティの [Mixer Audio Output] で [REC OUT] を選んでください。

1 [MONO, STEREO] 切換スイッチを [STEREO] に設定する

2 [BALANCE] ツマミを回す

[BALANCE] ツマミを回す方向と位置によって音声の左右のバランスが変化します。

- 右に回しきるとステレオ音声の右側音声だけ出力されます。左に回しきるとステレオ音声の左側音声だけ出力されます。

[BOOTH] 端子から音声出力する

[BOOTH MONITOR] ツマミを回す
[BOOTH] 端子から出力される音声レベルを調整します。

応用操作

PRO DJ LINKについて

PRO DJ LINK対応のバイオニア製 DJ プレーヤー (CDJ-2000、CDJ-900など)、rekordboxがインストールされているコンピュータ、および本機を LAN ケーブルを使って接続すると以下の PRO DJ LINK機能をお使いいただけます。PRO DJ LINK機能については、DJ プレーヤーの取扱説明書および rekordbox の操作説明書もあわせてご覧ください。

接続の仕方については、7ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

- スイッチングハブを使って接続すると、DJ プレーヤーは最大 4 台まで、コンピュータは最大 2 台まで接続できます。
- 100Base-TX 対応のスイッチングハブをお使いください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。
- DJ プレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。

❖ LINK MONITOR

コンピュータに保存されている rekordboxの音楽ファイルをヘッドホンで素早くモニターできます。

❖ STATUS INFORMATION

接続しているチャンネルの状態 (オンエア状況やチャンネル番号など) を DJ プレーヤーに知らせます。

❖ QUANTIZE

rekordboxにより解析された楽曲を使うと、ラフに [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押したり [X-PAD] に触ったりしてもオンビートとなります。

❖ FADER START

本機のフェーダー操作に連動して DJ プレーヤーの再生をスタートさせることができます (フェーダースタートプレイ)。

SOUND COLOR FX

各チャンネルの [COLOR] ツマミに連動して変化するエフェクトです。

1 [SOUND COLOR FX] ボタンのいずれかを押す

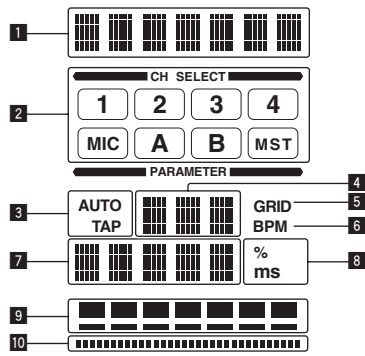
エフェクトの種類を選びます。
押したボタンが点滅します。

- エフェクトの種類については、17ページの「SOUND COLOR FXの種類」をご覧ください。
- [CH1] ~ [CH4] に同じエフェクトが設定されます。

2 [COLOR] ツマミを回す

ツマミを回したチャンネルの音声にエフェクトが加わります。

BEAT EFFECT



再生中の曲のテンポ (BPM=Beats Per Minute) に合わせてさまざまなエフェクトを瞬時に設定できます。

1	エフェクト表示部	選んでいるエフェクト名が表示されます。
2	チャンネルセレクト表示部	エフェクトを加えるチャンネル名が表示されます。
3	AUTO (TAP)	BPM測定モードがオートモードのとき [AUTO] が点灯します。手動入力モードのとき [TAP] が点灯します。
4	BPM 値表示 (3桁)	オートモードのときは自動で検出した BPM 値を表示します。検出できないときは前回検出した BPM 値で点滅します。手動入力モードのときは手動で入力した BPM 値を表示します。
5	GRID	rekordboxで解析された楽曲を再生している場合、DJ プレーヤーと組み合わせて QUANTIZE機能が使えるとき点灯します。QUANTIZE機能が使えないときは点滅または消灯します。
6	BPM	常時点灯します。
7	パラメーター表示部	エフェクトごとに指定されたパラメーターを表示します。[BEAT ◀ ▶] ボタンを押したとき、対応する拍の倍率を1秒間表示します。
8	% (ms)	エフェクトごとの単位に合わせて点灯します。
9	ビート表示部	選んでいる拍数の位置に合わせて点灯します。
10	タッチ表示部	[X-PAD] に触れているとき点灯します。

1 [AUTO/TAP] ボタンを押す

BPMの測定モードを選びます。

- [AUTO]: 入力されている音声信号から BPM を自動測定します。本機の電源をオンにしたときは、[AUTO] に設定されます。
- [TAP]: [TAP] ボタンを指で叩いて BPM を手動で入力します。
- [AUTO] の BPM 測定範囲は BPM=70 ~ 180 です。曲によっては正しく測定できないことがあります。BPM を測定できないときは表示部の BPM 値が点滅します。そのときは [TAP] ボタンを使って手動で入力してください。

2 [DELAY, ECHO, SPIRAL, REVERB, TRANS, FILTER, FLANGER, PHASER, ROBOT, MELODIC, SLIP ROLL, ROLL, REV ROLL, SND/RTN (MIDI LFO)] 切換スイッチを回す

エフェクトの種類を選びます。

- エフェクトの種類については、17ページの「BEAT EFFECTの種類」をご覧ください。
- [SND/RTN] を使うときは、以下の「外部エフェクターを使う」をご覧ください。
- [MIDI LFO] を使うときは、16ページの「MIDI LFOを使う」をご覧ください。

3 [1, 2, 3, 4, MIC, C.F.A, C.F.B, MASTER] 切換スイッチを回す

エフェクトを加えるチャンネルを選びます。

- [1] ~ [4]: 各チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
- [MIC]: [MIC] チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
- [C.F.A], [C.F.B]: クロスフェーダーの [A] (左) 側または [B] (右) 側の音声にエフェクトを加えます。
- [MASTER]: [MASTER] チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
- [MIDI LFO] を選んだときは、この操作は必要ありません。

4 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。

拍の倍率に対応したエフェクトタイムが自動で設定されます。

5 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す

音声にエフェクトが加わります。

[TIME] ツマミを回すと、エフェクトの時間的パラメーターを調節できます。

[LEVEL/DEPTH] ツマミを回すと、エフェクトの量的パラメーターを調節できます。エフェクトをオンにしているとき [ON/OFF] ボタンが点滅します。

- [ON/OFF] ボタンをふたたび押すと、エフェクトがオフになります。

❖ BPMを手動で入力する

再生中の音声の拍 (4分音符) に合わせて [TAP] ボタンを2回以上指で叩く

[TAP] ボタンを指で叩いた間隔の平均値が BPM に設定されます。

- [TAP] ボタンを使って BPM を設定すると拍の倍率は [1/1] に設定され、1拍 (4分音符) の時間がエフェクトタイムに設定されます。
- [TAP] ボタンを押しながら [TIME] ツマミを回すと BPM を手動で設定できます。
- [TAP] ボタンを押しながら [AUTO/TAP] ボタンを押し、2つのボタンを押しながら [TIME] ツマミを回すと BPM を 0.1 単位で設定できます。

❖ 外部エフェクターを使う

1 本機と外部エフェクターを接続する

接続の仕方については、7ページの「出力端子に接続する」をご覧ください。

2 [DELAY, ECHO, SPIRAL, REVERB, TRANS, FILTER, FLANGER, PHASER, ROBOT, MELODIC, SLIP ROLL, ROLL, REV ROLL, SND/RTN (MIDI LFO)] 切換スイッチを回す

[SND/RTN (MIDI LFO)] を選びます。

3 [1, 2, 3, 4, MIC, C.F.A, C.F.B, MASTER] 切換スイッチを回す

エフェクトを加えるチャンネルを選びます。

4 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す

外部エフェクターを通過した音声 [MASTER] チャンネルから出力されます。

- [ON/OFF] ボタンをふたたび押すと、エフェクトがオフになります。

❖ QUANTIZE機能を使う

rekordboxで解析された楽曲の GRID情報をもとに、再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトを加えることができます。

あらかじめ本機と PRO DJ LINK対応のパイオニア製 DJ プレーヤーを接続してください。接続の仕方については、7ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

QUANTIZE機能を使うためには、事前に rekordboxで音楽ファイルを解析する必要があります。rekordboxで音楽ファイルを解析する方法については、rekordboxの操作説明書もあわせてご覧ください。

- QUANTIZE機能は [REVERB]、[ROBOT]、[MELODIC]、[SND/RTN(MIDI LFO)] を選んでいるときは使えません。
- CDJ-2000、CDJ-900と組み合わせて使うときは、ファームウェアのバージョンを 4.0以降にアップデートしてからお使いください。(2011/02 現在)

1 [QUANTIZE] ボタンを押す

QUANTIZE機能をオンにします。

DJ プレーヤーから GRID情報を正しく受信し QUANTIZE機能が使用可能なときは、本機の本体表示部の [GRID] が点灯します。GRID情報を正しく受信できていないときは [GRID] が点滅します。

- DJ プレーヤーの状態 (オフエア、スクラッチ中、リバース再生中など) によっては GRID情報が受け取れないことがあります。

2 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す、または [X-PAD] に触れる

再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトが加わります。

- [QUANTIZE] ボタンをふたたび押すと、QUANTIZE機能がオフになります。

[X-PAD] を操作する

操作手順	[BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンの状態	X-PAD	エフェクト
①	オフ (点灯)	離す ↔ 触る	オフ ↔ オン
②	オン (点滅)	離す ↔ 触る	オン ↔ オン

❖ 操作手順 ①

1 BEAT EFFECTの手順 1 から手順 4 まで操作する

2 [X-PAD] に触れる

[X-PAD] はエフェクトのオン/オフの切り換えと量的パラメーターを変化させます。

- [X-PAD] から指を離すとエフェクトがオフになります。
- エフェクトをオンのまま [X-PAD] から指を離したいときは、[X-PAD] に触れた状態で [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押してから [X-PAD] から指を離してください。

❖ 操作手順 ②

1 BEAT EFFECTの手順 1 から手順 5 まで操作する

2 [X-PAD] に触れる

[X-PAD] はエフェクトの量的パラメーターを変化させます。

MIDI を使って DJ ソフトウェアを操作する

本機はボタンやツマミなどの操作情報を汎用の MIDI 形式で出力します。MIDI 対応の DJ ソフトウェアをインストールしたコンピュータと USB ケーブルを使って接続すると、本機で DJ ソフトウェアを操作できます。お使いのコンピュータにあらかじめ DJ ソフトウェアをインストールしてください。また、DJ ソフトウェアのオーディオおよび MIDI に関する設定も行ってください。

- MIDI チャンネルの設定方法については、22ページの「設定を変更する」をご覧ください。
- 本機が出力するメッセージについては 20ページの「MIDI メッセージ一覧」をご覧ください。

1 本機の [USB] 端子とコンピュータを接続する

接続方法については、8ページの「操作パネルに接続する」をご覧ください。

2 DJ ソフトウェアを起動する

3 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押す

MIDI をオンにします。

MIDI メッセージの送信を始めます。

- フェーダーやツマミを動かすと、その位置に応じたメッセージを送信します。
- [START/STOP] ボタンを 2 秒以上続けて押すと、ボタン、フェーダーまたはツマミの位置に応じた MIDI メッセージを一括で送信します (スナップショット)。
- [ON/OFF (UTILITY)] ボタンをふたたび押すと、MIDI メッセージの送信を止めます。
- MIDI タイミングクロック (BPM 情報) は [ON/OFF (UTILITY)] ボタンに関係なく送信されます。

❖ MIDI LFO を使うための準備をする

MIDI LFO を使う前に MIDI 対応のソフトウェアや機器など (以下、MIDI 信号受信側) を準備 (以下、ラーニング) する必要があります。

ラーニングは MIDI 信号受信側を操作します。

- 本機が出力するメッセージについては 20ページの「MIDI メッセージ一覧」をご覧ください。

1 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押す

MIDI をオンにします。

2 [DELAY, ECHO, SPIRAL, REVERB, TRANS, FILTER, FLANGER, PHASER, ROBOT, MELODIC, SLIP ROLL, ROLL, REV ROLL, SND/RTN (MIDI LFO)] 切替スイッチを回す

[SND/RTN (MIDI LFO)] を選びます。

エフェクト表示部に [S/R ⇄ LFO] が点滅したあと [SND/RTN] と表示されます。

3 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す

[BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンの MIDI メッセージを MIDI 信号受信側にラーニングさせます。

- [SND/RTN (MIDI LFO)] を選んでいるときと [SND/RTN (MIDI LFO)] 以外を選んでいるときでは、[BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンから送信される MIDI メッセージが異なります。

[SND/RTN (MIDI LFO)] を選んでいるときの [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンの MIDI メッセージは、この手順に沿って操作しているときだけ送信されます。

4 [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押す

[LFO FORM (WAKE UP)] ボタンの MIDI メッセージを MIDI 信号受信側にラーニングさせます。

エフェクト表示部に [1/7 ▲▲▲] と [1/7 LFO] が交互に表示されます。

- 必要に応じてその他のボタンやツマミの MIDI マッピングを設定してください。
[LFO FORM (WAKE UP)] ボタンの MIDI メッセージは連続して送信されるため、MIDI 信号受信側の設定によっては MIDI メッセージをラーニングできないことがあります。

その他のボタンやツマミの MIDI マッピングを設定するときは、[LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押して [SND/RTN] に切り換えてください。

❖ MIDI LFO を使う

あらかじめ「MIDI LFO を使うための準備をする」に従って準備してください。

1 [DELAY, ECHO, SPIRAL, REVERB, TRANS, FILTER, FLANGER, PHASER, ROBOT, MELODIC, SLIP ROLL, ROLL, REV ROLL, SND/RTN (MIDI LFO)] 切替スイッチを回す

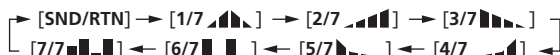
[SND/RTN (MIDI LFO)] を選びます。

エフェクト表示部に [S/R ⇄ LFO] が点滅したあと [SND/RTN] と表示されます。

2 [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押す

MIDI 信号の送信を始めます。

[LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押すたびに MIDI 信号の波形パターンが切り換わりします。



3 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

MIDI 信号の波形出力時間を設定します。

4 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す、または [X-PAD] に触れる

エフェクトをオンにする MIDI メッセージが送信されます。

- [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押して [1/7 ▲▲▲] ~ [7/7 ▲▲▲] を選んでいるとき、MIDI をオフにしても以下のボタンまたはツマミの MIDI メッセージを送信できます。
 - [X-PAD] (触る ↔ 離す)
 - [BEAT EFFECTS] の [CUE] ボタン
 - [1, 2, 3, 4, MIC, C.F.A, C.F.B, MASTER] 切替スイッチ
 - [LEVEL/DEPTH] ツマミ
 - [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタン
- [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押して [SND/RTN] と [MIDI LFO] を切り換えるとき、BEAT EFFECT が自動的にオフになります。
- [X-PAD] に触れているとき [SND/RTN] と [MIDI LFO] は切り換えられません。

❖ MIDI スタート / MIDI ストップを送信する

[MIDI] の [START/STOP] ボタンを押す

- MIDI スタート / MIDI ストップのメッセージは MIDI のオン / オフに関わらず [START/STOP] ボタンを押すたび交互に送信されます。

外部 MIDI シーケンサーを操作する

本機はボタンやツマミなどの操作情報を汎用の MIDI 形式で出力します。本機は再生中の音声のテンポ (BPM 情報) を MIDI タイミングクロックとして送信します。外部 MIDI シーケンサーを音声のテンポに同期させることができます。

- 本機が出力するメッセージについては 20ページの「MIDI メッセージ一覧」をご覧ください。
- MIDI タイミングクロックに対応していない外部 MIDI シーケンサーは同期できません。
- BPM が安定して測定できない音声では外部 MIDI シーケンサーは同期できません。
- [TAP] ボタンを指で叩いて手動で入力した BPM 値でも、MIDI タイミングクロックを出力します。MIDI タイミングクロックの出力範囲は 40 BPM ~ 250 BPM です。

1 [MIDI OUT] 端子と外部 MIDI シーケンサーの MIDI IN 端子を市販の MIDI ケーブルを使って接続する

2 外部 MIDI シーケンサーのシンクモードをスレーブに設定する

3 [MIDI] の [START/STOP] ボタンを押す

MIDI スタートを送信します。

4 [MIDI] の [ON/OFF] を押す

MIDI メッセージの送信を始めます。

エフェクトの種類

SOUND COLOR FXの種類

エフェクト名	説明	COLORツマミ
SPACE	原音に残響効果を加えます。	左回し：中・低音域に残響効果を加えます。 右回し：中・高音域に残響効果を加えます。
DUB ECHO	元の音声より少し遅れた音を減衰させながら数回出力し反響効果を加えます。	左回し：中音域だけに反響効果を加えます。 右回し：高音域だけに反響効果を加えます。
GATE/COMP	音声全体の質感を変化させます。	左回し：ゲート効果によって音がタイトになり、音量感が減ります。 右回し：コンプレッサー効果によって音が太くなり、音量感が増します。
NOISE	本機内部で発生させたホワイトノイズをフィルターを通してからチャンネルの音声とミックスして出力します。 各チャンネルの[TRIM]ツマミを回して音量を調節できます。また、[EQ/ISO (HI, MID, LOW)]ツマミを回して音質を調整できます。	左回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。
CRUSH	元の音声を壊したような音に変化させて出力します。	左回し：音声の歪みが増します。 右回し：音声を壊してからハイパスフィルターを通過させます。
FILTER	フィルターを通した音声を出します。	左回し：ローパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ハイパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。

BEAT EFFECTの種類

DELAY^①

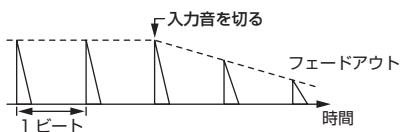
[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を1回出力します。1/2ビートのディレイ音を重ねると4ビートが8ビートになります。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPMの1拍の時間に対して1/8～16/1のディレイタイムを設定します。
TIMEツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 1～4000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター 3)	原音とディレイ音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	ディレイタイムを設定します。

ECHO^①

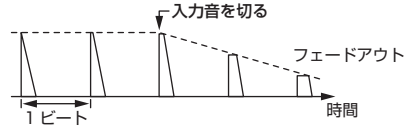
[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を減衰させながら数回出力します。1/1ビートのエコー音では入力音を切ったあとも曲のテンポに合わせてディレイ音がフェードアウトします。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPMの1拍の時間に対して1/8～16/1のディレイタイムを設定します。
TIMEツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 1～4000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター 3)	原音とエコー音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	ディレイタイムを設定します。

SPIRAL^①

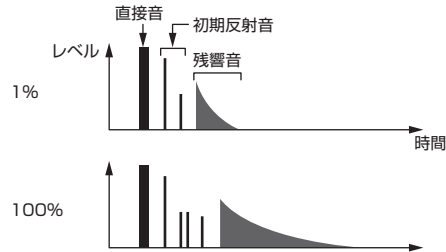
入力音に残響効果を加えます。ディレイタイムを変化させたとき、同時に音程も変化します。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPMの1拍の時間に対して1/8～16/1のディレイタイムを設定します。
TIMEツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 10～4000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスと量的パラメーターを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	ディレイタイムを設定します。

REVERB^①

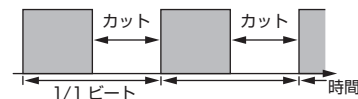
入力音に残響効果を加えます。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	残響効果の程度を1～100%の間で設定します。
TIMEツマミ (パラメーター 2)	残響効果の程度を設定します。 1～100 (%)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	フィルターのカットオフ周波数を設定します。

TRANS^①

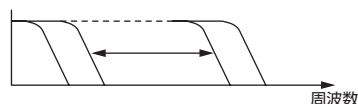
[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて音をカットします。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPMの1拍の時間に対して1/16～16/1のカット時間を設定します。
TIMEツマミ (パラメーター 2)	エフェクト時間を設定します。 10～16000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	カット時間を設定します。

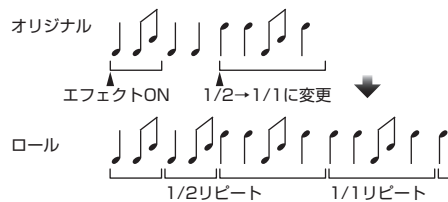
FILTER^①

[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフィルターのカットオフ周波数が変化します。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	カットオフ周波数を移動させる周期をBPMの1拍の時間に対して1/4～64/1の時間で設定します。
-------------------------	--

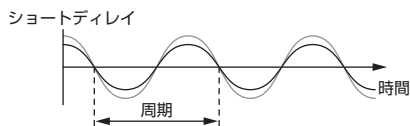
TIMEツマミ (パラメーター2)	カットオフ周波数が移動する周期を設定します。 10 ~ 32000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	右に回すほど効果が強調されます。
X-PAD (パラメーター4)	カットオフ周波数を移動させる周期を細かく揺らします。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	BPMの1拍の時間に対して1/16 ~ 16/1のエフェクト時間を設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	エフェクト時間を設定します。 10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	原音とROLL音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター4)	エフェクト時間を設定します。

FLANGER^①

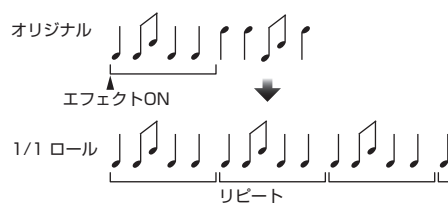
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて1周期のフランジャー効果を作り出します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	BPMの1拍の時間に対して1/4 ~ 64/1のエフェクト時間を設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	フランジャー効果が移動する周期を設定します。 10 ~ 32000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	右に回すほど効果が強調されます。 左に回しきると原音だけ出力されます。
X-PAD (パラメーター4)	フランジャー効果が移動する周期を細かく揺らします。

ROLL^{① ②}

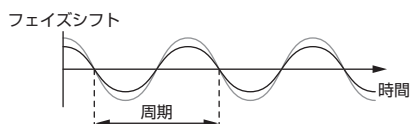
[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	BPMの1拍の時間に対して1/16 ~ 16/1のエフェクト時間を設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	エフェクト時間を設定します。 10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	原音とROLL音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター4)	エフェクト時間を設定します。

PHASER^①

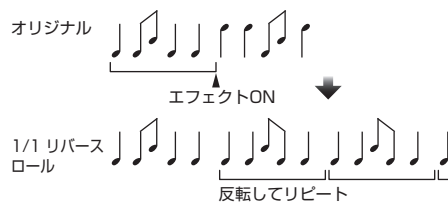
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフェイザー効果に変化します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	フェイザー効果を移動させる周期をBPMの1拍の時間に対して1/4 ~ 64/1の時間で設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	フェイザー効果が移動する周期を設定します。 10 ~ 32000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	右に回すほど効果が強調されます。 左に回しきると原音だけ出力されます。
X-PAD (パラメーター4)	フェイザー効果が移動する周期を細かく揺らします。

REV ROLL^{① ②}

[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を反転させ [BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	BPMの1拍の時間に対して1/16 ~ 16/1のエフェクト時間を設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	エフェクト時間を設定します。 10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	原音とROLL音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター4)	エフェクト時間を設定します。

ROBOT^①

原音をロボットが発しているような音に変化させます。

BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	エフェクト音の程度を-100 ~ 100%の間で設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	エフェクト音の程度を設定します。 -100 ~ 100 (%)
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター4)	エフェクト音の程度を変化させます。

MELODIC^{① ②}

[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音の中音域を記録し、記録した音を入力音のレベルに合わせて出力します。

BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター1)	録音した音声の再生方法を設定します。
TIMEツマミ (パラメーター2)	録音した音声の再生方法を設定します。
LEVEL/DEPTHツマミ (パラメーター3)	原音と録音した音声のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター4)	録音した音声の再生方法を設定します。

SND/RTN (MIDI LFO)

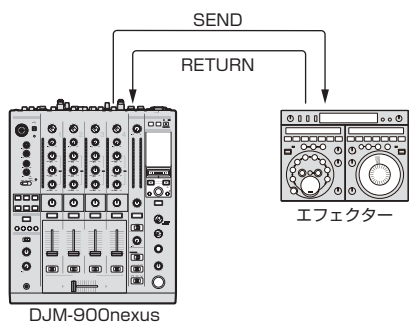
お持ちの外部エフェクターなどを接続します。
[LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押してMIDI対応のソフトウェアや機器などをMIDI信号を使って制御できます。

❖ SND/RTN^①

お持ちの外部エフェクターなどを接続します。

SLIP ROLL^{① ②}

[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。
エフェクト時間が変わると入力音を再び記録します。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1) _

TIME ツマミ (パラメーター 2) _

LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3) [RETURN] 端子に入力される音声レベルを調整します。

X-PAD (パラメーター 4) _

❖ MIDI LFO

トラックのテンポに合わせて MIDI 信号 (0 ~ 127) の波形を変化させます。
[LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押すたびに MIDI 信号の波形パターンが切り換わりします。

BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1) BPM の 1 拍の時間に対して 1/4 ~ 64/1 の波形出力時間を設定します。

TIME ツマミ (パラメーター 2) 波形出力時間を設定します。

LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3) _

X-PAD (パラメーター 4) MIDI 信号の波形パターンを変化させます。

- [MIDI LFO] を選んでいるときは [RETURN] 端子に接続されている外部エフェクターの音声は入力されません。

- 1 [1, 2, 3, 4, MIC, CF.A, CF.B, MASTER] 切替スイッチで [CF.A]、[CF.B] または [MASTER] を選んでいるとき、モニターしたいチャンネルの音声は [MASTER] チャンネルに出力されていない場合は [BEAT EFFECTS] の [CUE] ボタンを押してもエフェクト音はモニターできません。
- 2 エフェクトをオフにしているとき、[BEAT EFFECTS] の [CUE] ボタンを押してもエフェクト音はモニターできません。

MIDI メッセージ一覧

カテゴリー	SW 名	SW の種類	MIDI メッセージ						トリガー / トグル	備考
			MSB			LSB				
CH1	TRIM	VR	Bn	01	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	HI	VR	Bn	02	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	MID	VR	Bn	03	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	LOW	VR	Bn	04	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	COLOR	VR	Bn	05	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	CUE	BTN	Bn	46	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー	VR	Bn	11	MSB	-	-	-	-	0 ~ 127
	CROSS FADER ASSIGN	SW	Bn	41	dd	-	-	-	-	0, 64, 127
CH2	TRIM	VR	Bn	06	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	HI	VR	Bn	07	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	MID	VR	Bn	08	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	LOW	VR	Bn	09	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	COLOR	VR	Bn	0A	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	CUE	BTN	Bn	47	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー	VR	Bn	12	MSB	-	-	-	-	0 ~ 127
	CROSS FADER ASSIGN	SW	Bn	42	dd	-	-	-	-	0, 64, 127
CH3	TRIM	VR	Bn	0C	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	HI	VR	Bn	0E	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	MID	VR	Bn	0F	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	LOW	VR	Bn	15	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	COLOR	VR	Bn	16	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	CUE	BTN	Bn	48	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー	VR	Bn	13	MSB	-	-	-	-	0 ~ 127
	CROSS FADER ASSIGN	SW	Bn	43	dd	-	-	-	-	0, 64, 127
CH4	TRIM	VR	Bn	50	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	HI	VR	Bn	51	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	MID	VR	Bn	5C	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	LOW	VR	Bn	52	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	COLOR	VR	Bn	53	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	CUE	BTN	Bn	49	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー	VR	Bn	14	MSB	-	-	-	-	0 ~ 127
	CROSS FADER ASSIGN	SW	Bn	44	dd	-	-	-	-	0, 64, 127
クロスフェーダー	クロスフェーダー	VR	Bn	0B	MSB	-	-	-	-	0 ~ 127
フェーダーカーブ	CH FADER (↘, ↗, ↖)	SW	Bn	5E	dd	-	-	-	-	0, 64, 127
	CROSS FADER (↖, ↗, ✕)	SW	Bn	5F	dd	-	-	-	-	0, 64, 127
マスター	MASTER LEVEL	VR	Bn	18	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	BALANCE	VR	Bn	17	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
	CUE	BTN	Bn	4A	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	EQ CURVE (ISOLATOR, EQ)	SW	Bn	21	dd	-	-	-	-	0, 127
BOOTH MONITOR	BOOTH MONITOR	VR	Bn	19	dd	-	-	-	-	0 ~ 127
LINK	CUE	BTN	Bn	73	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
BEAT EFFECTS	◀	BTN	Bn	4C	MSB	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	▶	BTN	Bn	4D	-	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	AUTO/TAP	BTN	Bn	45	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	TAP	BTN	Bn	4E	dd	-	-	-	トリガーのみ	OFF=0, ON=127
	CUE	BTN	Bn	4B	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127

カテゴリー	SW 名		SW の種類	MIDI メッセージ						トリガー / トグル	備考
				MSB			LSB				
BEAT EFFECTS	EFFECT SELECT	DELAY	SW	Bn	2A	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		ECHO	SW	Bn	37	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		SPIRAL	SW	Bn	2B	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		REVERB	SW	Bn	36	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		TRANS	SW	Bn	35	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		FILTER	SW	Bn	3B	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		FLANGER	SW	Bn	32	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		PHASER	SW	Bn	39	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		ROBOT	SW	Bn	33	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		MELODIC	SW	Bn	3D	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		SLIP ROLL	SW	Bn	3A	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		ROLL	SW	Bn	2E	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		REV ROLL	SW	Bn	2F	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
	SND / RTN (MIDI LFO)	SW	Bn	3E	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127	
	CH SELECT	CH1	SW	Bn	22	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		CH2	SW	Bn	23	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		CH3	SW	Bn	24	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		CH4	SW	Bn	25	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		MIC	SW	Bn	26	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		C.F.A	SW	Bn	27	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		C.F.B	SW	Bn	28	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
		MASTER	SW	Bn	29	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127
	MIDI LFO	VR	Bn	76	dd	-	-	-	-	0 ~ 127	
	QUANTIZE	BTN	9n	76	dd	-	-	-	トリガー / トグル	-	
	TIME	SW	Bn	0D	MSB	Bn	2D	LSB	-	TIME の値 (FLANGER, PHASER, または FILTER を選んでいるときは半分の値になります。マイナスの値を選んでいるときはプラスの値になります。)	
	LEVEL/DEPTH	VR	Bn	5B	dd	-	-	-	-	0 ~ 127	
X-PAD	VR	Bn	74	dd	-	-	-	-	[X-PAD] の位置情報を送信します。		
ON/OFF X-PAD (タッチ) • BEAT EFFECT で [SND/RTN (MIDI LFO)] 以外のエフェクトを選んでいるとき	BTN	Bn	72	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127		
ON/OFF X-PAD (タッチ) • BEAT EFFECT で [SND/RTN (MIDI LFO)] を選んでいるとき	BTN	Bn	40	dd	-	-	-	②	OFF=0, ON=127		
MIC	HI	VR	Bn	1E	dd	-	-	-	-	0 ~ 127	
LOW	VR	Bn	1F	dd	-	-	-	-	0 ~ 127		
SOUND COLOR FX	NOISE	BTN	Bn	55	dd	-	-	-	トリガー / トグル ^①	OFF=0, ON=127	
	SPACE	BTN	Bn	69	dd	-	-	-	トリガー / トグル ^①	OFF=0, ON=127	
	GATE/COMP	BTN	Bn	6A	dd	-	-	-	トリガー / トグル ^①	OFF=0, ON=127	
	DUB ECHO	BTN	Bn	6B	dd	-	-	-	トリガー / トグル ^①	OFF=0, ON=127	
	CRUSH	BTN	Bn	56	dd	-	-	-	トリガー / トグル ^①	OFF=0, ON=127	
Fader Start	Fader Start 1	BTN	Bn	58	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127	
	Fader Start 2	BTN	Bn	59	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127	
	Fader Start 3	BTN	Bn	5A	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127	
	Fader Start 4	BTN	Bn	5D	dd	-	-	-	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127	
HEADPHONES	MIXING	VR	Bn	1B	dd	-	-	-	-	0 ~ 127	
	LEVEL	VR	Bn	1A	dd	-	-	-	-	0 ~ 127	
	Timing Clock	-	F8	-	-	-	-	-	-	-	
Fader Start	Fader Start 1		9n	66	dd	-	-	-	-	BACK CUE=0, PLAY=127	
	Fader Start 2		9n	67	dd	-	-	-	-	BACK CUE=0, PLAY=127	
	Fader Start 3		9n	68	dd	-	-	-	-	BACK CUE=0, PLAY=127	
	Fader Start 4		9n	69	dd	-	-	-	-	BACK CUE=0, PLAY=127	
MIDI	START	BTN	FA	-	-	-	-	-	-	-	
	STOP	BTN	FC	-	-	-	-	-	-	-	

① あるボタンを ON にすることにより、別のボタンが ON から OFF に切り換わるとき、2つのボタンから MIDI メッセージの ON と OFF をそれぞれ送信します。OFF に切り換わるボタンがないときは、押したボタンから MIDI メッセージの ON だけ送信します。

② あるポジションから別のポジションに切り換わるとき、2つのポジションから MIDI メッセージの ON と OFF をそれぞれ送信します。

- [START/STOP] ボタンを 1 秒以上続けて押すと、ボタン、フェーダーまたはツマミの位置に応じた MIDI メッセージを一括で送信します (スナップショット)。MIDI スナップショットは MIDI スタート / MIDI ストップ以外のすべての MIDI メッセージを送信します。

設定を変更する

- 1 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを 1 秒以上押す
[USER SETUP] モード設定画面が表示されます。
- [CLUB SETUP] モード設定画面を表示するときは、いったん本機の電源をオフし、[ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押しながら [POWER] ボタンを押します。

- 2 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す
設定項目を選びます。

- 3 [TAP] ボタンを押す
設定項目の設定値変更画面に切り換わります。

- 4 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す
設定値を変更します。

- 5 [TAP] ボタンを押す
設定値を決定します。
元の画面に戻ります。
- 設定値を変更しないまま元の画面に戻るときは [QUANTIZE] ボタンを押します。

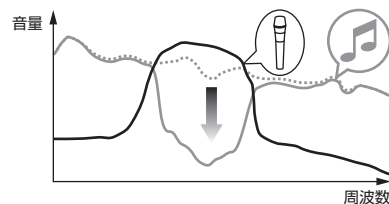
- 6 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押す
[USER SETUP] モード設定画面を閉じます。
- [CLUB SETUP] モード設定画面を閉じるときは、[POWER] ボタンを押して本機の電源をオフにします。

オートスタンバイ機能について

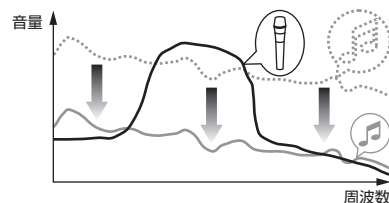
- [Auto Standby] を [ON] に設定しているとき、以下の条件をすべて満たしたまま 4 時間を過ぎると自動的にスタンバイ状態になります。
- 本機のボタンやつまみなどを操作していない。
 - 本機の入力端子に -10 dB 以上の音声信号が入力されない。
 - PRO DJ LINK 接続していない。
 - [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押すとスタンバイ状態が解除されます。
 - 本機は、オートスタンバイ機能をオンに設定して出荷しています。オートスタンバイ機能をお使いにならないときは、[Auto Standby] を [OFF] に設定してください。

トークオーバー機能について

- トークオーバー機能には、以下 2 つのモードがあります。
- [ADV] (アドバンスド・トークオーバー) : [MIC] チャンネル以外の音声は [Talk Over LEVEL] の設定値に従って、中音域だけ減衰して出力されます。



- [NOR] (ノーマルトークオーバー) : [MIC] チャンネル以外の音声は、[Talk Over LEVEL] の設定値に従って減衰して出力されます。



設定項目一覧

* : お買い上げ時の設定

モード	設定項目	画面表示	設定値	説明
USER SETUP	Fader Start	F.S.	ON、OFF*	[LINK] 端子に接続されている DJ プレーヤーのフェーダースタート機能を一括でオン / オフします。
	MIDI CH	MIDI CH	1* ~ 16	MIDI チャンネルを設定します。
	MIDI Button Type	MIDI BT	TGL*、TRG	MIDI 信号の送信の仕方を [TGL (TOGGLE)] または [TRG (TRIGGER)] から選びます。
	Talk Over Mode	TLK MOD	ADV*、NOR	トークオーバー機能のモードを [ADV (ADVANCED)] または [NOR (NORMAL)] から選びます。
	Talk Over LEVEL	TLK LVL	-6 dB 、 -12 dB 、 -18 dB *、 -24 dB	トークオーバー機能の音声減衰レベルを設定します。
CLUB SETUP	Digital Master Out Level	DOUT LV	-19 dB *、 -15 dB 、 -10 dB 、 -5 dB	[DIGITAL MASTER OUT] 端子から出力される音声の最大音声レベルを設定します。 ^[1]
	Digital Master Out Sampling Rate	DOUT FS	48 kHz、96 kHz*	デジタル信号のサンプリングレートを設定します。
	MASTER ATT.	MST ATT	-6 dB 、 -3 dB 、 0 dB *	[MASTER1] 端子および [MASTER2] 端子から出力される音声の減衰レベルを設定します。
	Auto Standby	AUTOSTB	ON*、OFF	オートスタンバイ機能をオン / オフします。
	Mic Output To Booth Monitor	MIC BTH	ON*、OFF	[BOOTH] 端子からマイク音声を出力する / 出力しないを設定します。
	PC UTILITY	PC UTLY	ON*、OFF	USB ケーブルを接続したとき、コンピュータの設定ユーティリティソフトウェアを自動起動する / 自動起動しないを設定します。
	Factory Reset	INITIAL	YES、NO*	すべての設定を初期設定値に戻します。

[1] : マスターレベルインジケーターが一番上まで点灯していても、出力音声が歪むことがありますのでご注意ください。

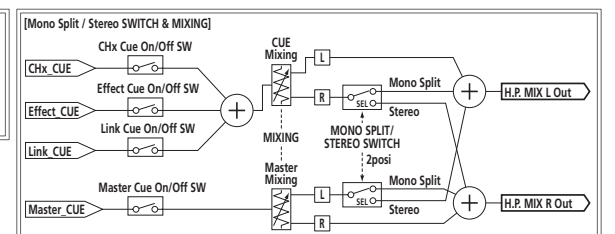
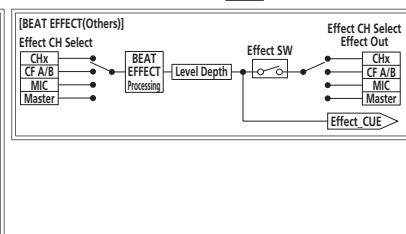
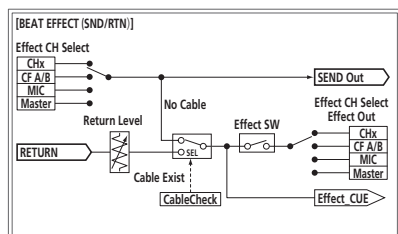
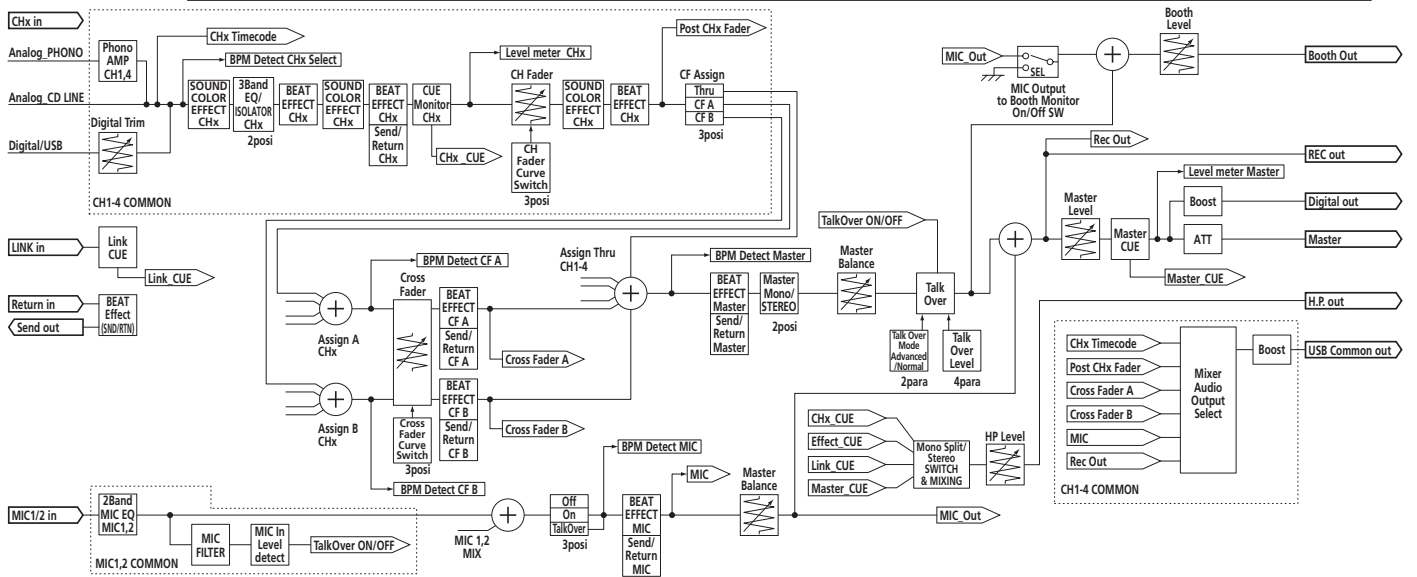
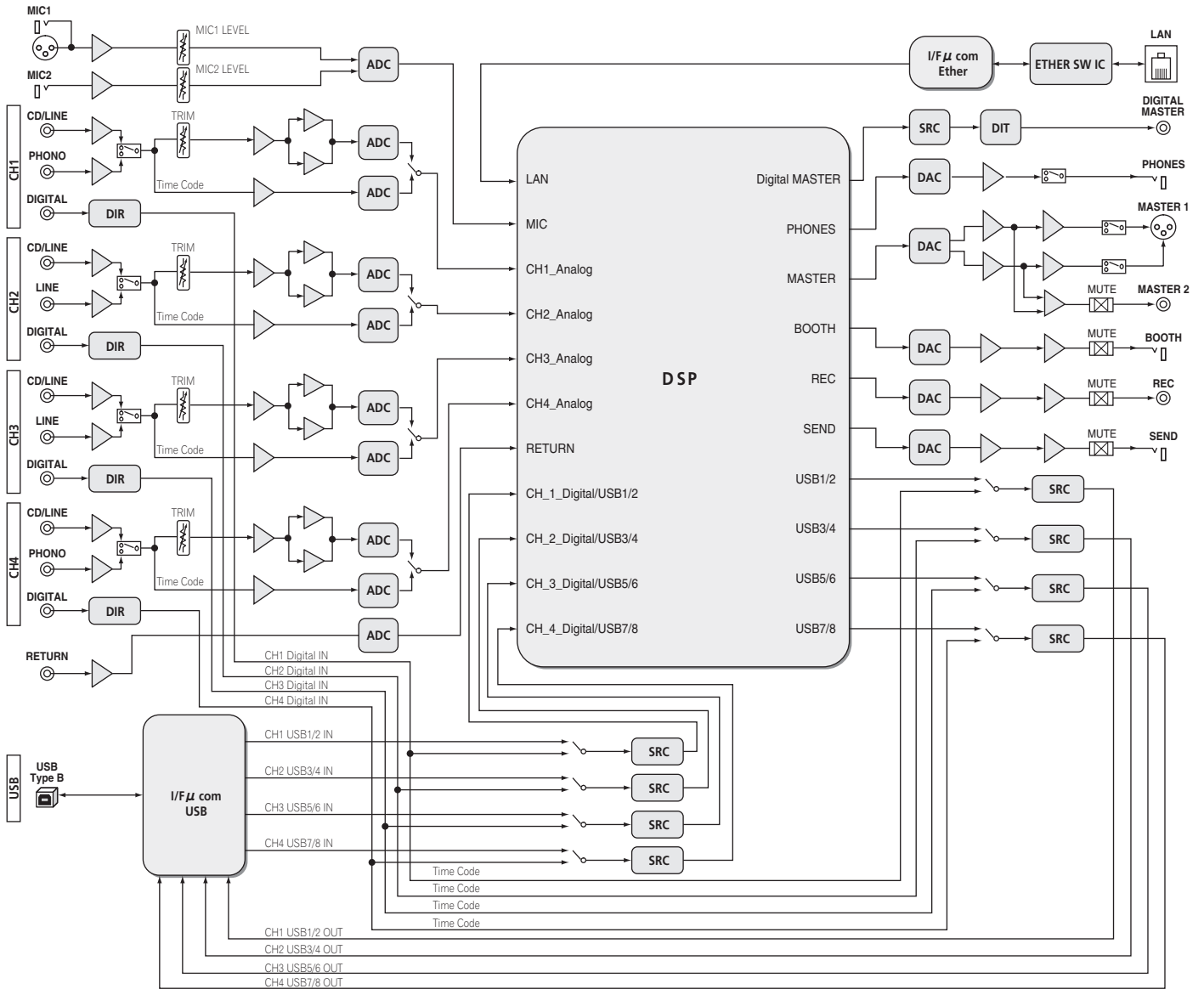
その他

故障かな？と思ったら

- 故障かな？と思ったら、下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは、25ページの「保証とアフターサービス」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。
- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再び差し込むことで正常に動作することがあります。

こんなときは	ここを確認してください	対応の仕方
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていますか？	電源コードをコンセントへ接続してください。
音が出ない、または音が小さい。	[DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチの位置が正しく設定されていますか？	[DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチを回してチャンネルの入力ソースを切り換えてください。(13ページ)
	接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続ケーブルを正しく接続してください。(7ページ)
	端子やプラグが汚れていませんか？	端子やプラグの汚れを拭き取ってから接続してください。
	[MASTER ATT.] が [-6 dB] などに設定されていませんか？	[USER SETUP] 画面で [MASTER ATT.] を切り換えてください。(22ページ)
デジタル音声が出力できない。	デジタル音声出力のサンプリング周波数 (fs) が、接続機器の仕様と合っていますか？	[CLUB SETUP] 画面で [Digital Master Out Sampling Rate] を接続機器の仕様に合わせて設定してください。(22ページ)
音が歪む。	[MASTER] チャンネルから出力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	マスターチャンネルレベルインジケータの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [MASTER LEVEL] ツマミを調整してください。(13ページ)
	各チャンネルに入力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	[MASTER ATT.] を [-3 dB] または [-6 dB] に設定してください。(22ページ) チャンネルレベルインジケータの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを調整してください。(13ページ)
クロスフェードできない。	CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B) 切換スイッチが正しく設定されていますか？	各チャンネルの [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを正しく設定してください。(13ページ)
DJ プレーヤーのフェーダースタートができない。	[FADER START] が [OFF] に設定されていませんか？	[USER SETUP] 画面で [FADER START] を [ON] に設定してください。(22ページ)
	[LINK] 端子と DJ プレーヤーが正しく接続されていますか？	[LINK] 端子と DJ プレーヤーを LAN ケーブルを使って正しく接続してください。(7ページ)
	音声ケーブルが正しく接続されていますか？	本機の音声入力端子と DJ プレーヤーの音声出力端子を音声ケーブルで接続してください。(7ページ)
	DJ プレーヤーのプレーヤー番号は正しく設定されていますか？	DJ プレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。
[BEAT EFFECTS] が効かない。	[1, 2, 3, 4, MIC, C.F.A, C.F.B, MASTER] 切換スイッチが正しく設定されていますか？	[1, 2, 3, 4, MIC, C.F.A, C.F.B, MASTER] 切換スイッチを回してエフェクトを加えたいチャンネルを選んでください。
[SOUND COLOR FX] が効かない。	[COLOR] ツマミを適切な位置に設定していますか？	[COLOR] ツマミを左右に回してください。(14ページ)
外部エフェクターが効かない。	[BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンが [ON] に設定されていますか？	[BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押して [SND/RTN] を [ON] にしてください。(15ページ)
	[SEND] 端子および [RETURN] 端子に外部エフェクターが正しく接続されていますか？	[SEND] 端子および [RETURN] 端子に外部エフェクターを接続してください。(7ページ)
外部エフェクターの音が歪む。	外部エフェクターの音声出力レベルは適切に設定されていますか？	外部エフェクターの音声出力レベルを調整してください。
テンポ (BPM) が測定できない、またはテンポ (BPM) の測定値がおかしい。	音声入力レベルが高すぎませんか？ または音声入力レベルが低すぎませんか？	チャンネルレベルインジケータの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを調整してください。(13ページ) 曲によってはテンポ (BPM) が測定できない場合があります。[TAP] ボタンを使って手動でテンポを入力してください。(15ページ)
測定したテンポ (BPM) の値が CD の記載値と異なる。	—	BPM の測定法が異なるため、多少異なる値を示すことがあります。処置は不要です。
MIDI シーケンサーが同期しない。	MIDI シーケンサーのシンクモードはスレーブに設定されていますか？	MIDI シーケンサーのシンクモードをスレーブに設定してください。
	お使いの MIDI シーケンサーは MIDI タイミングロックに対応していますか？	MIDI タイミングロックに対応していない MIDI シーケンサーは同期できません。
MIDI コントロールできない。	MIDI がオンになっていますか？	[MIDI] の [ON/OFF] ボタンを押してください。(16ページの「MIDI を使って DJ ソフトウェアを操作する」)
	MIDI 設定が正しく設定されていますか？	本機で DJ ソフトウェアを操作するときは、本機の MIDI メッセージをお使いの DJ ソフトウェアにアサインする必要があります。アサイン方法については、お使いの DJ ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
コンピュータに接続しても本機が認識されない、USB インジケータが消灯または点滅している。	コンピュータにドライバソフトウェアが正しくインストールされていますか？	ドライバソフトウェアをインストールしてください。インストール済みのときは、再度インストールしてください。(8ページ)
コンピュータの音声が本機から出力されない。	本機とコンピュータが正しく接続されていますか？	USB ケーブルを使って本機とコンピュータを接続してください。(8ページ)
	音声出力デバイス設定が正しく設定されていますか？	音声出力デバイス設定で本機を選んでください。お使いのアプリケーションの設定方法については、お使いのアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。
	[DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチの位置が正しく設定されていますか？	[DIGITAL, CD/LINE, PHONO, LINE, USB */*] 切換スイッチを [USB */*] の位置に設定してください。(13ページ)
[BEAT EFFECTS] の [CUE] ボタンを押してもエフェクト音がモニターできない。	—	[ECHO]、[REVERB]、[ROLL]、[SLIP ROLL]、および [REV ROLL] のエコー音を発生する回路はエフェクト回路より後ろに配置されているため、エフェクト音はモニターできません。故障ではありません。
アナログプレーヤーを本機の [PHONO] 端子に接続すると音が歪む。 また、[TRIM] ツマミを回してもチャンネルレベルインジケータの点灯が変わらない。	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーを接続していませんか？	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーは [CD/LINE] 端子または [LINE] 端子に接続してください。(7ページ)
	アナログプレーヤーと本機の間にはコンピュータ用のオーディオインターフェースが接続されていませんか？	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーに PHONO/LINE 切換スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。 コンピュータ用のオーディオインターフェースの出力がラインレベルのときは、[CD/LINE] 端子または [LINE] 端子に接続してください。(7ページ) アナログプレーヤーに PHONO/LINE 切換スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。

ブロックダイアグラム



保証とアフターサービス

修理に関するご質問、ご相談

裏表紙に記載の修理受付窓口、またはお買い求めの販売店にご相談ください。

保証書 (別添)

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

保証期間は購入日から1年間です。

次のような場合には保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、性能、動作の保証をいたしません。また、故障した場合の修理についてもお受けいたしかねます。

- 本機を改造して使用した場合
- 不正使用や使用上の誤りの場合
- 他社製品や純正以外の付属品と組み合わせて使用したときに、動作異常などの原因が本機以外にあった場合。

故障、故障の修理その他にともなう営業上の機会損失 (逸失利益) は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。

補修用性能部品の最低保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼される時

本書の23ページの「故障かな?と思ったら」をお読みいただき、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しないときには、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名: DJJ ミキサー
- 型番: DJM-900NXS
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容
「いつ、どのくらいの頻度で、どのような操作 (使用したディスクも) で、どうなる」といった詳細
- 訪問ご希望日
- 訪問先までの道順と目標 (建物、公園など)

保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

免責事項について

- Pioneerおよびrekordboxは、パイオニア株式会社の登録商標または商標です。
 - Microsoft®、Windows Vista®、Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Apple、Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
 - ASIOはSteinberg Media Technologies GmbHの商標です。
- その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

仕様

一般

電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	42 W
待機時消費電力 (スタンバイ状態)	0.4 W
本体質量	7.1 kg
最大外形寸法	331 mm (幅) × 107.9 mm (高さ) × 409 mm (奥行)
許容動作温度	+5 °C ~ +35 °C
許容動作湿度	5% ~ 85% (結露のないこと)

オーディオ部



サンプリングレート	96 kHz
MASTER D/A コンバーター	32 bits
その他の A/D、D/A コンバーター	24 bits
周波数特性	
CD/LINE	20 Hz ~ 20 kHz
S/N 比 (定格出力時)	
PHONO	88 dB
CD/LINE	105 dB
MIC1、MIC2	84 dB
全高調波歪率 (CD/LINE — MASTER1)	0.005 %
基準入力レベル / 入力インピーダンス	
PHONO	-52 dBu/47 kΩ
CD/LINE	-12 dBu/47 kΩ
MIC1	-52 dBu/8 kΩ
MIC2	-52 dBu/12 kΩ
RETURN	-12 dBu/47 kΩ
基準出力レベル / 負荷インピーダンス / 出力インピーダンス	
MASTER1	+8 dBu/10 kΩ/5 Ω以下
MASTER2	+2 dBu/10 kΩ/22 Ω以下
REC OUT	-8 dBu/10 kΩ/22 Ω以下
BOOTH	+8 dBu/10 kΩ/1 kΩ以下
SEND	-12 dBu/10kΩ/1 kΩ以下
PHONES	+8.5 dBu/32 Ω/1 Ω以下
定格出力レベル / 負荷インピーダンス	
MASTER1	+26 dBu/10 kΩ
MASTER2	+22 dBu/10 kΩ
クロストーク (LINE)	82 dB
チャンネルイコライザー特性	
HI	-26 dB ~ +6 dB (13 kHz)
MID	-26 dB ~ +6 dB (1 kHz)
LOW	-26 dB ~ +6 dB (70 Hz)
マイクイコライザー特性	
HI	-12 dB ~ +12 dB (10 kHz)
LOW	-12 dB ~ +12 dB (100 Hz)

入力 / 出力端子

PHONO入力端子	
RCA ピンジャック	2 系統
CD/LINE入力端子	
RCA ピンジャック	4 系統
LINE入力端子	
RCA ピンジャック	2 系統
MIC1入力端子	
XLR コネクター / フォーンジャック (Ø 6.3 mm)	1 系統
MIC2入力端子	
フォーンジャック (Ø 6.3 mm)	1 系統
RETURN入力端子	
フォーンジャック (Ø 6.3 mm)	1 系統
DIGITAL IN同軸入力端子	
RCA ピンジャック	4 系統
MASTER出力端子	
XLR コネクター	1 系統
RCA ピンジャック	1 系統
BOOTH出力端子	
フォーンジャック (Ø 6.3 mm)	1 系統
REC OUT出力端子	
RCA ピンジャック	1 系統
SEND出力端子	
フォーンジャック (Ø 6.3 mm)	1 系統
DIGITAL MASTER OUT同軸出力端子	
RCA ピンジャック	1 系統
MIDI OUT端子	
5P DIN	1 系統
PHONES出力端子	
ステレオフィォーンジャック (Ø 6.3 mm)	1 系統
USB端子	
B タイプ	1 系統
LINK端子	
LAN 端子 (100Base-TX)	1 系統

本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーコールは、携帯電話・PHSなどからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします


パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

- 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品  0120-944-222 一般電話 044-572-8102

■ファックス 044-572-8103

■インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします


修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。


修理についてのご相談窓口

- お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間 月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話  0120-5-81028 ^{コ-ル・イオニア} 一般電話 044-572-8100

■ファックス  0120-5-81029

■インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair/>

※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを付けております

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間 月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話 098-987-1120


■ファックス 098-987-1121

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話  0120-5-81095 一般電話 044-572-8107

■ファックス  0120-5-81096

平成22年11月現在 記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.042

© 2010 パイオニア株式会社 禁無断転載

パイオニア株式会社

〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<DRA1451-B>

